日本大学薬学科

桜薬会会報

9

目次

会長挨拶 ／ 高仲　正……2
教室主任挨拶 ／ 桐澤　誠……3
教室だより……4
黒海とトルコの旅 ／ 澤村　良二……11
母校教育現場から
　学務委員会 ／ 椛沢　洋三……12
　学生生活委員会 ／ 佐藤　孝俊……15
　薬学科図書室について ／ 徳竹　伯夫……16
　薬学科卒業生の就職に関して ／ 中村　健…17
食べ物のQ＆A ／ 笹野　英雄……18
駿河台コミュニティー
　第7回桜実会……19
　第1期生同窓会……19
　第9期生20周年記念同窓会……20
　第12期生同窓会……21
　山形県桜薬会支部……21
　渡辺俊男先生に感謝する会　予告……22
　里見政吉先生に感謝する会　報告……23
事務局だより……24

会長挨拶

会長　高　仲　　正

桜薬会59年度総会（キャピタル東急、5月27日）で再選いただき、会長として2期目を迎えました。前期（昭和56～58年度）は会員皆様の多大な御支援と各役員並びに事務局の方々の御協力により、会員情報のコンピュータ化、名簿発行、地域・職域支部の確立・強化等、桜薬会としての活動基盤の整備・充実を計り、着実に成果をあげてまいりました。また、会運営の基礎となる予算につきましても、昭和59年度よりは過去の実績を基として算出し得るようになり同窓会としての形態は一応整備された状態にあると存じます。今期は会員皆様方の一層の御協力をいただき、機能面での充実を計り、これより薬学部への昇格に積極的に取り組んで行きたいと考えております。

薬学科の薬学部への昇格は、その任に当られておられる薬学科職員の方々はもとより、われわれ薬学科卒業生がかねてより強く望むところでありますが、皆様すでに御承知のように、現在、本部、理工学部及び薬学科にそれぞれ担当の委員会が組織され種々検討が行われております。

桜薬会といたしましても学内の動きに合わせてこれに対応する組織として当面、常任理事会をあて、学内との連絡を密にすると共に、今迄に3回、柴田理事長、川崎常務理事にお会いし、我国における薬学教育の趨勢薬学系大学における日大薬学科の位置、卒業生の活動状況等を説明申し上げると共に、部昇格に対する大学側の考えおよび進行状況についてうかがってまいりました。現段階では昭和64年に行われる日本大学創立百年祭の記念事業の一環として薬学部への昇格を検討したいとの事です。部昇格に当っては資金面をはじめとして解決せねばならない内外の問題がまだ多く残されており、桐沢主任教授をはじめ諸先生の御苦労は大変なものと存じます。桜薬会としても学内会員を中心により団結を強め、協力して薬学部実現に向って努力する時期にあると考えます。会員皆様のより積極的な参加を御願い申し上げます。

近年新設された薬学系大学ではそれぞれ特色を持ったカリキュラムが組まれているという話を聞いております。歴史のある組織において、その組織が高い活力を維持し、社会的、学問的要請に即応しうる能力を保持するためには、適切な自主点検と他主点検を行い、的確な将来構想とそれの実現のための計画を定め、実行する努力が必要であると云われています。日大薬学科も33年を経た現在、学部昇格を踏まえて10～20年を目途に将来構想を樹立する時期に至っていると思います。

近年、科学技術の進歩、諸産業の発展とはうらはらに、諸化学物質の安全性が問題となり、この方面の知識、技術をはじめとしてこれに使用する実験動物についての知識も薬学教育で必要になって来ております。また、本来の医薬品についても新医薬品を研究開発し、市場に出すまでに必要な資料はますます膨大なものが要求されております。これらはほんの一例ですが、薬学に要求される知識、技術は質、量ともに近年増加の一途をたどっております。

薬学は実践の学問であり、従って学内はもとより、各分野の衆知を集めた薬学部として発足出来ればと存じます。そのためにも会員皆様の協力を切望致します。

桜薬会員も昭和59年4月現在6,731名（正会員5,737名）となり、国内はもとより、海外においても多方面で活躍しておられますが、皆様の御健康と一層の御活躍をお祈り致します。

（国立衛生試験所薬理部長）

ご挨拶

薬学科教室主任　桐澤　誠

立春を過ぎて、今年は既に寒さも峠を越したと感じられる昨今ですが、校友の皆様には如何お暮しでしょうか、お見舞申し上げます。桜薬会会報第８号が出てから早や１年が経過し、この度は第９号に挨拶を書けとのこと、年をとったせいでしょうか、本当にあっという間に１年が過ぎて了ったという感じがいたしております。

昨昭和59年を振り返って、大学のことを一、二校友諸兄姉にご報告することにいたします。６月には５期15年間在任された鈴木勝総長のご引退（８月31日任期満了）に伴う総長選挙が実施され、選挙の結果、高梨公之先生が９月１日で新総長に就任されました。高梨新総長のご経歴を、日本大学新聞の記事によって掻い摘んでご紹介いたしますと、大正４年栃木県生まれ　昭和13年本学法文学部法律学科卒　22年法文学部教授　35年法学部長、理事　43年通信教育部長　44年理事長　47年副総長　54年三島学園長、国際関係学部長を歴任。学外の経歴としては、文部省大学設置審議会委員　法務省法制審議会委員　日本学術会議会員　国際法曹協会理事　私大通信教育協会理事長等を歴任された民法の権威者であります。以上がご経歴の一端ですが、私共の印象では、地味で堅実且つ公正さと客観性に富む思慮深い学究肌の人物と感じられる方でいらっしゃいます。一方、理事長には柴田先生が再選され、柴田勝治理事長、高梨公之新総長のもとに、９月より新執行部が発足いたしました。総合大学である日本大学の中枢として、新執行部は卓越した公正な判断力と果敢な実行力をもって懸案の処理に当られるものと我々は期待いたしております。

つぎに薬学科のことですが、昭和59年３月には162名、９月には15名、計177名の諸君が卒業され、皆様の後輩として桜薬会正会員になられました。その入れ替りと申しますか、４月には243名の新入生を迎え入れております。この数は薬学科入学定員180名の1.37倍に当る学生数でありますが、入学手続者の歩留りが過去の実績に基づく推定値より大幅に良かった結果であります。昭和60年の入試は現在進行中でありますが、昨年の結果を合否判定に生かして、今年は入学定員に見合う適正な数の新入生を受け入れたいと考えております。昨年の卒業生を主とした第66回（４月３、４日実施）、第67回（10月13、14日実施）薬剤師国家試験の結果は別表の通りでありますが、春不合格者の内26名は秋に合格しておりますので、春秋を通じますと177名の卒業生中162名が合格（合格率91.5%）したことになります。卒業生全員が薬剤師資格の取得を希望し国家試験を受験しているのが現状ですから、教員、学生共さらに一層の努力をして合格率の向上を計らねばならないと思っております。

紙面の残りが少なくなりましたが、薬学教育に関する問題について一言ふれて置きます。薬学カリキュラムの過密さは皆様がご存じの通りですが、最近はさらに医療薬学（または臨床薬学）といわれる分野の拡充強化の必要性が唱えられております。その結果として、薬剤師国家試験受験資格を薬学の正規の課程を修めて卒業し、かつ、大学院において薬学修士の課程を修了した者に変更することで、長年に亘って論議されてきた教育年限延長を実現しようとする案が薬剤師会主導の形で進められております。薬剤師の質の向上を図るという大義名分があり、異論の出にくい所がありますが、薬学にはかねがね薬学教育と薬剤師教育との議論もあり、難しい問題です。しかし、日薬は日薬案の実現を進めておりますので、対応の遅れている我が薬学科としては早急に対策を検討、実施しなければなりません。いろいろ問題が山積しておりますが、教職員一丸となって解決に努力する所存でありますので、校友の皆様にもよろしくご支援、ご協力を賜わりますようお願いいたします。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。（2月15日記）

第66回、67回薬剤師国家試験合格状況

回数	区分	総数			新卒※			その他		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
66	日本大学	184名	136名	73.91%	160名	123名	76.87%	24名	13名	54.17%
	私立計			73.77			78.07			41.21
	総計			71.09			75.42			40.27
67	日本大学	62	43	69.35	15	13	86.67	47	30	63.83
	私立計			55.42			51.85			56.20
	総計			54.30			51.43			54.78

※66回：58/12～59/3卒、67回：59/4～59/9卒

※　※　※　※

教室だより

薬化学教室

会員の皆様の御活躍をお慶び申し上げるとともに、昨年5月に催されました「里見政吉先生に感謝する会」を大変盛会にしていただき、教室員一同深く感謝致しております。当教室といたしましては、このような会が、黒柳惣十先生、立山弥七先生についで三度目の開催となり、世の移り変りの早いのを痛感する次第です。里見先生が本薬学科に迎えられたのは、昭和35年4月でして、丁度5期生が卒業された年になります。したがって、1～5期生の方々には余り馴染まれておられないと思いますが、この会報でもすでに紹介されているように、先生は大変温厚なお人柄で、学生からも慕われていたようです。本薬学科に迎えられる前は、財団法人乙卯研究所で23年間にわたり研究一筋にお過ごしになり、アルカロイドの研究をされておられました。担当された教室は初めの15年間は薬品製造学教室で、ついで薬化学教室に移られ9年間研究室の運営に当たられました。また、昭和52年から2年間薬学科の主任教授をつとめられました。そして昨年3月日本大学より名誉教授の称号を授与されました。

里見先生ご退職後は、私が習志野校舎より駿河台校舎に移り、有機化学IIの講義を引続き担当させていただいております。昨年まで担当していた物理化学の講義は佐藤孝俊先生に引きついでいただき、私は講義、研究ともに有機化学に専念しております。

教室員の異動としましては、昨年度給費生扱い副手として勤務されていた安藤敏、加藤祐二の両君が退職され、昨年4月から中内正人君が協力してくれています。また、佐々木勲君（昨年4月～5月）と福山久美子さん（昨年6月～7月）が学生実習で忙しい間協力してくれました。

本年度の卒研生は22名（男子10名、女子12名）で、7月には研修旅行で那須高原に行き、テニス、アーチェリー、花火などを楽しんで、大いに親睦を深めました。目下、卒業に向って皆頑張っております。

最後に、私ども教室員一同、黒柳先生、立山先生、ならびに里見先生の業績を継承し、薬化学教室のより発展、充実に努力して参りますので、皆様の御支援を心からお願い申し上げます。（長谷川記）

生化学教室

桜薬会会員の皆様には、各界で御元気に御活躍のことをお慶び申し上げます。

当教室員一同元気で頑張っております。教室は有吉歌子教授、高橋周七教授、小池勝也助手、中村直

美副手および給費生安西裕司の５名であります。小池助手は前会報で報告しました理化学研究所での内地留学をおえ、夏の農芸化学会での発表を予定しております。教室員の移動といたしましては、58年12月に給費生目崎純子さんが退職され、スズケンセンターに勤められました。又、52年より助手として勤めてこられた小川真理子さんが59年３月に退職され、代って４月より中村直美（59年卒）と私、安西裕司（同）が勤務致しました。

ここ４、５年続けております好熱菌の研究関係は、日本大学遺伝子組み換え安全委員会が設立され、研究室（237）の一部が改装され待望の遺伝子組み換え実験室が59年９月に完成し、目下、安全委員会へ組み換え実験の申請中で認可され次第大腸菌への組み換え実験を行う予定でございます。

昨年度卒研生は15名全員が無事卒業し病院薬剤師５名（安斎素子、伊藤文子、川名あけみ、塩川高、本吉俊也）、調剤薬局１名（原島正明）、会社３名（小野明美、片桐美佐子、向田聡）、進学１名（川辺良樹：千葉大・薬）、研究職４名（安西裕司、小川慶子、中村直美、波多江則子）、その他１名（菊地岳夫）と社会にふみ出しました。一同元気で一生懸命に頑張っています。諸先輩の皆々様にも何卒一層の御指導、御鞭撻の程よろしくお願い致します。

本年度卒研生は17名（伊沢克彦、市川倫世、市村美恵子、大小田修司、慶野哲雄、庄子清隆、城田正則、橋本之宏、古見真夫、藤田昭雄、沼田久、増田亮、三上敦史、宮下久徳、森雅彦、柳智之、吉澤道夫）で、昨夏には塩原研修所に２泊３日で研修旅行に参りました。昼はテニスやハイキングに汗を流し、夜はゼミナールや花火大会と多彩に過ごし親睦を深めました。目下、研究を進める傍、卒業及び国家試験突破を目指して頑張っている最中であります。又、本年は数学科４年の小磯美幸さんが「生物種と遺伝子のコドンの使用頻度の関係」について、東大・九大の on line を利用して当教室で卒研を進めています。

最後に、桜薬会会員の皆々様の御健康と益々の御発展をお祈り申し上げます。（安西記）

放射化学教室

桜薬会会員の皆様には各方面で御活躍の事と存じます。

このたび当教室青木正忠先生が、昭和59年４月１日付をもちまして教授に昇任いたしました事を御報告申し上げます。今までにも増して多忙な日をお過ごしではございますが、お元気で御活躍なさっております。

さて、59年度卒業研究生も例年通り５月には各教室に配属されました。当教室は、男性５名、女性６名、合計11名が配属されました。

７月下旬には、日大塩原研修所に２泊３日の卒研研修旅行に出かけました。今年は薬剤学教室、生化学教室の両教室と一緒になり、学生と教員相互間の親睦は勿論のこと、今後の研究や、就職活動について等活発な意見交換がなされ例年にもまして有意義で、楽しい卒研研修旅行となりました。

後期に入り、卒業研究もいよいよ本格的となり各自頑張っております。就職の方は、企業が３名、病院が３名内定いたしました。現在は卒業試験、国家試験に向けて頑張っております。

最後になりましたが、桜薬会会員皆様の御健康と御発展をお祈りいたしております。（山口記）

薬品製造学教室

桜薬会会員の皆様には相変らずご活躍のことと存じます。当教室員も一同元気にやっております。

このたび昭和53年４月当教室出身の三宅宗晴先生は59年４月１日付で助手に昇格されました。

教室員の異動がありましたのでお知らせいたします。59年２月、給費生として教室に勤務された杉浦貞美さんが退職され、後任に本学科59年３月卒業の小川慶子さんが当られ６月１日より元気よく勤務されております。

昭和59年度の当教室の卒業研究生は男子12名、女子８名です。７月下旬には軽井沢研修所へ１泊２日の卒業研究旅行へ出かけ、就職に関するゼミナールなどを通じ教員・学生相互の親睦を深めました。写真はその時のものであります。

後期に入り就職もほぼ決まり、卒業研究は本格化いたしております。

末筆ながら会員諸氏の一層のご活躍をお祈り申し上げます。　（道祖土記）

衛生化学教室

当教室の本年度の状況を報告いたしますと、澤村先生は、海外派遣研究員として、８月27日から１ヶ月間の日程で、黒海の水質研究に関する資料の収集としての地域の水道事情（トルコ）を視察され、また国際水質汚濁研究会議（アムステルダム）、燐処理会議（パリ）に出席されました。

長谷川先生は、４月、教授（鑑識化学担当）に御昇格され、現在澤村先生、長谷川先生中心に教室員一同張切って研究・教育に従事しております。なお、研究テーマとしては、徒来のものと本筋で大きく変わることはありませんが、今年のテーマを記しますと、従来からの

①塩素の生体および生体成分に対する影響―衛生化学的知見に基づく多面からのアプローチ

②環境汚染物質の中毒発現機構に関する研究に加えて今年から新たに

③環境汚染物質の水系生物に対する影響

等のテーマについて研究を進めております。

今年度の卒論生は21名（男子13名、女子８名、例年になく男子に人気高でした。）という所帯でした。８月には卒研旅行、２泊３日の静岡三島への旅でした。日中は、テニスにプールにと、夕方１時間程のセミナー、夜は空気の澄んだ星空の下豪華な（？）バーベキュー大会、続いて例によって学生さんの大好きな（先生方は？）コンパを深夜までと、また夏の暑い夜の断水事件など予定外な事も種々、青春の１ページとなる（？）旅だったと思います。

一方、当教室の同窓会であるカッパ会も毎年行なわれておりますが、今年度も11月３日お茶ノ水「メゴダス」に80余名が集まり、非常に盛会で心強い感じでした。当日は、澤村先生よりトルコ、欧州のスライド映写により、黒海での海水浴中のドアップの写真とか、カルチェラタンにカッパという名の店があるとか、菊水の one cup を持っていかれたなど（本来は学術的なお話が主でした。詳しくは先生まで御一報下さい。）のお話があり、また卒論生も先輩から社会の話等を聞くことができ喜んでおりました。今学生らは、卒業試験に、卒論作成にと日夜励んでおります。先輩方の益々のご教導お願い致します。

終りになりましたが、桜井映子先生は、12月に栄希君をご出産されたことと、教室員一同元気で頑張っていることを報告します。

末筆ながら皆様の一層の御活躍をお祈り申し上げます。　（池上記）

生薬学教室

生薬学教室の近況をお知らせ致します。まず教室員の異動について述べますと、安川助手が昭和59年４月より１年間、国立ガンセンター化学療法部に内

地留学し研究に励んでいます。また給費生扱い臨時雇の花輪昭彦君（57年卒）は市立韮崎西中学校の理科の教諭として、小勝裕子さん（58年卒）は本学文理学部化学科に勤務され、後任に吉竹充君、三浦芳恵さん、只友優子さん（共に59年卒）が頑張っております。また研究生の吉村衛氏（5期）は2年間の研究生活を終えられ、杏林大学へ戻られました。59年卒業生の17名（男子10名、女子7名）は全員卒業し、病院3名、薬局5名、製薬会社5名、大学院1名、教室3名とそれぞれ社会に巣立っていきました。諸兄姉の温い御支援をお願い致します。

滝戸先生は日本植物園協会の会長を2期目を迎え、全国の植物園の発展に尽力されております。昨年の8月上旬には10日間、ハワイ諸島（オアフ、ハワイ、カウワイ島）に植物の採集と観察に、下旬には山内先生と共に姉妹校ソウル中央大学校　金一赫教授との共同研究の打合せに韓国に出張され、開催中のユネスコ主催の薬用植物と香辛料のアジアシンポジウムへ参加しました。生薬の市場調査、採培地の見学等ハードスケジュールな夏休みでした。

卒業研究旅行は例年のごとく7月下旬に3泊4日で伊吹山に出かけました。出発は恒例の23時25分東京発大垣行列車で、先輩方の差入、午前2時の静岡での27期生の差入と、アルコールの補給をしながらきき過ぎる冷房にもめげず翌日は琵琶湖湖北に位置し、七本槍で知られる賤ヶ岳へ、今話題のアマチャズルやイカリソウ等を採集し、また晩のおかずの山草摘の登山でした。翌朝は5時起き、伊吹山の濃霧の中での植物採集、下りは我教室自慢の薬草畑へ、イタドリやナワシロイチゴ等の雑草を取除き、やっと畑らしくなってきて、昨年植えたジギタリス、ミシマサイコ、センキュウ等がたくましく育っており、今回植えた苗も来年成長してます様にとお祈りし、思い出に残る旅行でありました。

昨年の研究成果は学会誌に3報、薬学会2題、生薬学会2題、日本大学理工学部学術講演会2題を発表しました。研究費は一昨年に引続き日本大学より「日韓両国における新天然薬物の開発研究」、「薬用人参の組織培養による品質改良」と新たに「Cassia属植物の成分研究」というテーマで3研究に学術助成金を受けています。

終りになりましたが、皆様の増々の御発展をお祈り致します。　（北中記）

薬品分析学教室

桜薬会会員の皆様には、お元気に御活躍のこととお慶び申し上げます。

先づ最初に教室員の異動がありましたのでお知らせ致します。57年1月より副手として勤められていた関晶子さんが8月31日をもって退職され、10月1日より富山医科薬科大学大学院博士課程（臨床分析学講座）を終えられた竹内俊文助手が勤められています。給費生としては、59年卒業の木所克也君が5月から10月まで在籍しておりましたが、12月より東京都の公務員として勤務し活躍されています。又、元素分析室につきましては、小林茂子助手に代り、59年分析教室を卒業しました岩松紀子さんが仕事を引き継いでいます。

58年度卒業生16名（男性9名、女性7名）の就職状況は、会社8名、薬局及び薬店2名、病院4名、大学副手1名、公務員1名であり、各分野で頑張っています。

本年度も卒研生20名（男性9名、女性11名）が配属され、卒業研究には向流クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーに関する研究を行っていまして、天然物、希土類元素の分離分析、リン脂質の分析、貯水槽補修用剤中の成分分析等に皆熱心に取りくんでいます。又、元素分析に関する研究も行っています。そして7月26～28日には福島県の裏磐梯に研修旅行に行き、五色沼を散策したり、テニス、サイクリング、ゲームに汗を流し親睦を深めました。9月29日に行われた薬学科のスポーツ大会では、ソフトボールで2位に入賞し椛沢先生宅で祝賀会も行われました。

分析学教室同窓会は、お茶の水プラザ2階にて行われ、今回は本年度の卒研生6名の参加もあり、若手と先輩との輪も広がり楽しいひとときを過ごしま

した。

分析教室も新しいスタッフを加え、椛沢先生を中心に教室員一同頑張っていきたいと思いますので御支援宣しくお願い致します。

末筆ながら会員皆様の御健康とより一層の御発展をお祈り申し上げます。（長張記）

薬剤学教室

卒業生の皆様におかれましては、お元気で御活躍のことと御推察申し上げます。

さて、教室員一同、元気に頑張っておりますが、教室員の移動をお知らせします。58年12月アルバイトの山田安基子さんが退職し、59年３月卒業の梅田実君が４月より後任となりました。彼も59年12月に退職しております。

本年の卒論生は、男子７名、女子13名です。学生らも毎日元気でやっておりますが、国家試験の日迄は青息吐息、今が剣ケ峰と言ったところです。卒論旅行は、58年に新装なった栃木県の塩原温泉にある大学の研修所へ行ってまいりました。あのアブがブンブン飛んでいた頃を御存知の方には、想像も出来ない様なきれいな所になっておりました。ここで斉藤先生の若かりし頃のお話をうかがったりして、楽しい親睦の旅をしてまいりました。

駿河台コミュニティーで幹事が報告しておりますが、斉藤太郎先生をお招きして、桜実会（薬剤学教室の同窓会）を59年11月に「山の上ホテル」で開き、多数の御参加をいただきました。

文末で失礼かとは思いますが、岡村先生の奥様の御葬儀（59年２月）の際には、卒業生の皆様の格別の御厚情、並びに御協力を賜りました事に心より御礼申し上げます。

最後に卒業生の皆様の益々の御健闘をお祈り申し上げます。（伴野記）

薬物学教室

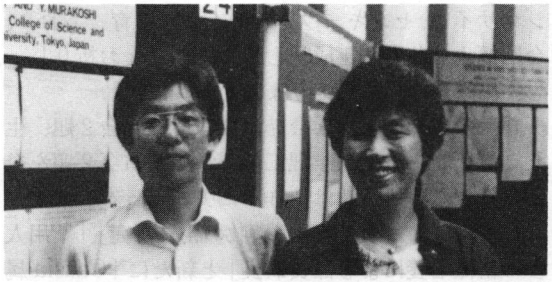
桜薬会会員の皆様には、各方面でお元気に御活躍のこととお慶び申し上げます。当教室員も、卒研生ともども元気で頑張っております。

現在教室員は、村越善衛教授、牧村瑞恵講師、伊藤芳久助手、給費生の石毛久美子さんと草間貞（59年４月より講師）の５名に加えて、15期の藤井裕一君が会社から派遣されて、研究生として１年間所属していました。また動物室管理の井熊一宏君は、59年10月より技手に昇格されました。教室関連科目の病理学は、昨年に引き続き日大医学部の桜井勇教授に御担当いただきました。生理学・解剖学を１回生から御担当いただいた渡辺俊男先生は、59年度をもって定年を迎えられ、先生に感謝する会が、５月26日（日）に計画されています。（詳細は22頁）。当日、薬物同窓会の総会も開かれますので多数の方の御出席をお願いします。

研究面では、村越・牧村・伊藤の３先生が、英国で開かれた第15回国際麻薬研究者会議で「オピオイド受容体の部分精製」について発表され（写真）、引き続き開催された第９回国際薬理学会にも出席されたのを始め、国内の関連学会でも多数報告させていただきました。また本年６月９日（日）には、村越先生が部会長として第72回日本薬理学会関東部会を、理工学部１号館で開催することになりました。興味をお持ちの方の御来場をお待ちしています。

昭和58年度卒研生17名（男子９名、女子８名）は全員卒業し、また全員国試合格を果たしました。昭和59年度卒研生20名（男子15名、女子５名）も既に就職も決まり（内２名は大学院進学）、張り切って卒業研究に打ち込んでいます。

最後に、桜薬会会員の皆様の一層の御健勝と御発展をお祈りします。（草間記）

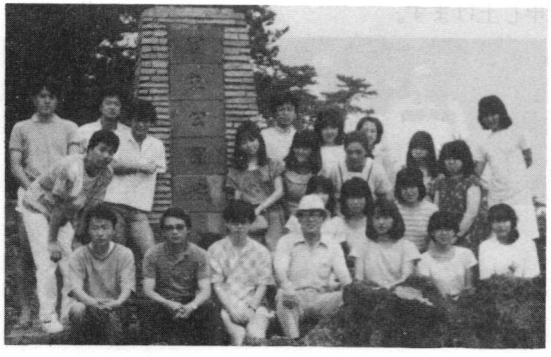


香粧品化学教室

桜薬会々員の皆様には御元気で御活躍のことと推察致します。佐藤先生を中心に教室員、卒研生一同元気で頑張っております。

会報№8以降の当教室の動向について御紹介致します。給費生として58年4月から59年3月まで色々とお手伝いいただいた斉藤夏美さん（28期）は現在郷里山形の協立病院薬局で活躍されております。後任として59年4月より斉藤香織さん（29期）が勤めておりましたが都合により退職され、現在は小玉製薬（株）で企画の御仕事をされております。そのあとを受け10月からは宮野慎也君（29期）が教室員に加わりました。彼はたいへんなスポーツマンであり、学生時代、卒研対抗ソフトボール大会で二人分の活躍をし、3位に導いてくれたのが印象的です。従って現在の教室員は佐藤教授、斎藤助手(18期)、給費生の宮野君の3名です。

59年度の当教室の卒研生19名は全員卒業、全員国試合格と言う快挙を残し、現在、社会人一年生としてそれぞれの職場にて活躍しております。60年度の卒研生は21名（男子8名、女子13名）配属となりました。7月には伊豆（熱川温泉）へ1泊2日の卒研旅行に出かけ、日中はゼミ、海水浴、スイカ割りなどで楽しみ、夜はサシミ料理に舌づつみをうち、酒盃をかさねながらの懇親や自慢の喉を披露するなど楽しい一時を過しました。もちろん恒例の花火大会も行ないました。記念写真は卒研旅行の時のものです。



その卒研生の就職活動も一段落し、卒業試験を残すのみとなりました。就職先は男性の90%が一流製薬企業の医薬情報担当者であることが本年度の特徴です。

教室の研究テーマは主として界面・コロイド現象であり、昨年は日本薬学会で2件の発表を行ない、油化学にその成果を報告しました。4月には日本薬学会第105年会が金沢で開催されます。これから、入学試験、卒業式、学会等多忙な時期を迎えようとしております。これらの行事が片付いて始めて年度が終ったことになりますが、残された薬剤師国家試験に卒研生全員の合格を本年も願っています。

最後になりましたが皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げ教室の近況報告と致します。（斎藤記）

経営学教室

経営学教室の近況をお知らせ申しあげます。

他大学に類例を見ない伝統ある経営学教室は、その伝統を高めるため、ますます教室員はじめ後輩学生も頑張っています。

近年、医療経済のひっ迫、薬価基準の引下などによる薬業界の不振は、従来、余り関心を示さなかった薬学領域の先生方にも、薬事制度、医療制度、保険制度に強い関心をもたせています。かかる時代を迎え、当教室の薬学での位置づけは今後益々高まるものと考えます。

当教室では、目下、時代の要請に応えるため、医療や薬業における各種の状況とその経済的関連について多くの研究に着手しています。

ちなみに、今年の卒研生は、調剤内容を薬学的見地からの多くのパラメータを調査し、そのパラメータと経済的関連について多変量解析を行っています。全員が夏休み中よりコンピュータと対面し、熱心な研究を行っています。

そのほか、薬剤使用と医療費用との関連など多くの解析研究を行っています。

また、教室行事としては、卒研生全員で上田市の医薬分業の実態を見学し、現地で上田市薬剤師会長

小林富次郎先生の講義を受けるなど社会薬学領域の実践に努めています。

さて、次に、当教室の今後の動きについてお知らせ致します。

冒頭の桐沢主任、高仲会長の挨拶にもある如く、薬学部昇格問題は進行しつつあります。これら学内における各種の対応とともに、当教室においてもこれらの動きに対応し、伝統ある教室の一層の発展、充実に努めております。

その一環として、前任の中村泉美先生時代よりの当教室の実質的研究業務の内容である薬事制度・薬業経済の諸研究を行なうための実質的な教室の名称とする必要性からの学内組織名の変更が昭和60年度より行われ、「経営学教室」の名称が「薬事・経済学教室」と改称することとなりました。

もとより、教室名称が変更されても、「経営学教室」の伝統、同窓会組織などは以前のまま踏襲されることは何ら変りません。卒業生諸氏の以前にも益しての御協力をお願い申しあげます。

次に、当教室卒業生もすでに600名を超えました。当教室出身者による同窓会「いずみ会」は、昭和54年以来、久しく開かれていないことから、本年中に「いずみ会」集いを開催すべく、目下、幹事諸氏がその準備に当っています。いずれ、御案内があると思いますが、その節はふるって御参加下さるよう幹事に代って御案内申しあげます。

おわりに、同窓諸兄姉の益々の御健勝をお祈り申しあげて近況報告といたします。(中村　健記)

微生物学教室

桜薬会の皆様には各方面に益々御活躍のこととお慶び申し上げます。

月日のたつのも早いもので、前号で微生物学教室の誕生をお知らせしたと思っていましたら、当教室も開設以来もはや丸三年を経ようとしております。最近ようやく落ち着いてきて、徐々にではありますが実習や研究の機器類も整いつつあります。

また昭和59年4月より、当教室に新しく島田弘子副手が加わりました。島田副手は、微生物学教室の第一回卒業生として昭和58年4月に薬学科を卒業後給費生扱い副手として当教室に残り2ヶ月程実習等を手伝っていました。その後千葉県内の病院に務め、59年4月より当教室に勤務しております。それまでさほど若くはない男性2名—うち1名は比較的ソージの不得手な助手—であったため、とかく殺風景且つ殺伐としていた当教室も何とはなしに華やいだ雰囲気に包まれるようになり、若い女性の影響力の大きさを改めて痛感しているしだいです。

小山先生は相変わらず習志野と駿河台を股にかけての忙しさですが、元気で活躍しておられます。微生物学に関わる教科の設置年次変更に伴なう過渡期も、澤村先生をはじめとする衛生化学教室員各位の支援により本年度で一段落いたしました。来年度からはまた新しい一歩を歩み出さねばと、教室員一同決意を新たにしております。

昭和58年度の卒業研究生5名は無事？全員卒業し国家試験もパスしてそれぞれ製薬会社、調剤薬局等に就職し頑張っているようです。昭和59年度の卒業研究生は、男性5名、女性8名の13名が配属され、少しにぎやかになりました。卒研旅行は昨年8月河口湖に行き、ボート遊びやテニスを楽しみ、激しい雨ニモ負ケズ、サイクリングや花火大会を敢行して大いに若さを誇示してきました。本年度の卒業研究生は習志野キャンパスという良好な環境に恵まれたせいか、おっとりした所があり、就職先未定のものが半数以上おりハラハラさせられております。

末筆ながら皆様の御健康と一層の御活躍を御祈り申し上げます。(井口記)

黒海―美しい無酸素の海―とトルコの旅

教授　澤村良二

「世界には色名のついた海が4つある。そのうちソ連のウクライナとトルコ国との間にある黒海は、硫化水素の海である。だから黒い海と言う」と、衛生化学の水質汚濁の講義でお話してきました。しかしことによると黒くないかも知れないという疑念があり、ぜひこの眼で見たいと願っていました。今回日本大学の海外派遣研究費をいただいたので、トルコに出張して首都アンカラの国立研究所と、ビザンチン帝国以来の古都にあるイスタンブール大学で黒海の水質研究の調査をし、黒海で海水浴までして来ることができ、心から感謝をしています。

結論から言いますと、黒海はドナウ河などの流入で表層は半海水で、深部は地中海からの海水の流入によって比重が重く成層ができています。表面での光合成で繁殖したプランクトンの死骸の一部は、深層に降下して硫酸還元菌の作用をうけるため、海面下200m以下では硫化水素が発生し、生物としては嫌気性菌しかいない無酸素の海です。しかし表層は明るい紺碧の海で、素晴らしい眺めでした。私の講義も半分は本当でしたが、黒い海というのは事実と相違していたわけです。謹んで訂正いたします。

ところで現在のトルコ人は中央アジアから来た民族で、トルコ語は日本語に似た言語構造であり、非ヨーロッパの国、そしてとても親日感情の強い国民です。なぜ日本人を大好きかというと、そもそもは日露戦争で彼等の宿敵ロシアをやぶり、また東洋のはずれで素晴らしい発展をしていることが理由です。

古都イスタンブールは、シルクロードのアジア側の末端であり、ヨーロッパから来るオリエント急行の終着駅でもあります。四世紀、五世紀頃の遺跡や寺院が沢山あり、またイスラム教のモスクやトルコ王国時代の古今の遺跡が無数に混じり合っていて、旧ローマ帝国以来の遙久の文明の歴史の中に融けこんでいる気持は、えもいわれぬものです。

私の研究の主目的を果たすために地質学、海洋学、都市工学などの研究者に会って、文献調査などをしたわけですが、その間にイスタンブール大学の薬学部も訪問しました。ここの薬学部は豊富な植物標本を集めていて、その整理と保管を担当する専任の教授までいました。その他植物成分の研究が盛んなようで、興味のある話をきくことができました。しかしガスクロマトグラフィーとか液体クロマトグラフィーのような分析機器はなかなか購入できないようで、私達の日本での研究設備の話をすると、大いに羨ましがっていました。

薬学部長とは薬学教育制度の話をしましたが、私の名刺に理工学部薬学科となっていることを大変に奇異に思ったようで、いろいろと質問を浴びせられました。日本でも普通は薬学部であり、本学の場合は例外のケースであることを説明して了解を得ましたが、日本大学も薬学部を設置して、現在のような特殊な状況を一日も速く解決することの急務を、あらためて痛感した次第です。

話が前後しますが、黒海は世界でも珍しい巨大な自然の無酸素の海ですが、ソ連および東欧圏の諸国やトルコ国内から流入する水の汚染防止対策の方も不充分のようであり、特異な自然条件に加えて人為による水質汚濁防止が今後の重要課題になるものと思われます。そんな意味でも、もう一度ぜひトルコへの旅の機会を持ちたいものと思っています。

母校・教育現場から

母校、教育現場からの紹介
—学務委員会—

薬学科学務委員長　**椛沢洋三**

新しい年が明け、会員の皆様には益々ご健勝とお察しいたします。昭和60年度を迎え日大薬学科も満32才、卒業者5,900名、在校生を合わせると6,700余名を数えるほどになりました。会員のご子弟には同じ母校を卒業されたり、在学していたり、また入学を希望される方も多数おられるかと思います。自信を持って推薦いただけるようにと現場でも努力しております。

此の度、編集担当からのご依頼があり、学務関係について少し現状をお知らせしてみたいと思います。薬学科の学務委員会は、各学年のクラス担任から選出された4名と私の計5名で構成し、毎月定例会を開いて学務関係の主に実務的な部分を担当しています。上部組織には理工学部学務委員会があり、この委員長は学務担当が勤めます。

1.教育方針　本学科への入学者のほとんど全員が薬剤師免許の取得を目的にしておりまして、教育の方針としては「人類の健康管理に貢献する有能な薬剤師の育成」をスローガンにした薬剤師指向であります。授業科目の一覧表を参照しながら説明して参りますが、カリキュラムは幾度か改訂が重ねられた結果で、ほとんどの科目が半期ものになっています。目新しい科目や懐かしい科目がお目に触れるかと存じます。初年次では、習志野校舎でより高い一般教養を身に付けると同時に、薬学概論等で薬学生としての自覚や薬業界、薬学界に対する理解と認識を深め、また一部専門科目の設置で“薬学”への興味と意欲を育んでいます。53単位中30単位以上取得の条件で駿河台校舎へ移行した2年次では、専門色が濃くなり薬学を修め発展させるための基礎的な科目と医学概論も設置されています。この年次における学習態度が一つの鍵となるとの考えで十分な学習を強く希望しております。3年次になりますと、応用的な科目が加えられ66単位と最も多い科目が設置され、この中には能力や興味に応じて選択できるC系列の科目と臨床検査技師の受験資格を得るためのD系列が含まれています。国家試験受験のプレッシャーのまだ無いこの年次で、卒業研究着手に必要な111単位以上の修得とともに、最も充実した大学生活を期待しています。4年次では、国家試験問題に直接関係の深い科目が置かれほとんどは前期で終了しますが、総合講義では後期に全員を対象に総括的な集約講義が行われています。現在、卒業研究着手者はすべていずれかの教室に配分されますが、取得総単位が120以下は演習グループとし、実験を主体にするグループと分けています。これは他の薬系大学でも多く例をみる方策ですが、演習者には後期から別の時間割を組み実践的な演習が行われます。一方実験組では、与えられた研究課題の完成を目差して調査や研究に取り組みます。そして卒研生は、所属する教室単位で卒研旅行を計画し、教室だよりでご覧になれるように楽しく実施しています。これは父兄協力会の補助を受けて行われていますが、“同じ釜の飯を食う”これら卒研グループの行事は、教員を交えた仲間同士の就職や国家試験対策、さらには卒業後の交流などへと強く繋り、我が校に古くから伝る良き慣習と思います。

2.学務関係の年間行事　入学試験は毎年建国記念日のころ、入学式は4月の上旬で翌日頃にガイダンスがあり、すぐに授業が開始されます。前、後期とも15週が予定され前期試験は夏休み前、7月中旬から約10日間位で実施されます。3、4年次生は休暇中に病院実習等で忙しく過ごす学生もおります。後期は9月中旬から始まり試験は1月の下旬になりますが、薬学科では他学科には無い薬剤師国家試験の

薬　学　科

		初年度	2年次	3年次	4年次
一般教育科目	選択	○化学(A) (4) ○生物学 (4) ○物理学 (4) ○数学 I (2) ○数学 II (2) 法学 (4) 国語国文学 (4) 歴史 (4) 心理学 (4)	倫理学 (4) 社会学 (4)	哲学 (4) 経済学 (4)	
外国語科目	選択	英語 I (2) 英語 II (2) ドイツ語 I (2) ドイツ語 II (2)	英語 III (2) 英語 IV (2) ドイツ語 III (2) フランス語 I (2) ロシア語 (2)	英語 V (2) ドイツ語 IV (2)	
保健体育科目	必修	体育(講義) (2) 体育(実技) (2)			
基礎教育科目	選択	薬用植物学 (2) 薬学概論 (2)	解剖学 (2) 無機化学 (2) 医学概論 (2)		
専門教育科目	必修	基礎薬学実習 (1) 微生物学実習 (1)	薬化学実習 (1) 薬品分析学実習 (1) 生理・解剖学実習 (1)	生化学実習 (1) 衛生化学実習 (1) 薬品製造学実習 (1)	薬物学実習 (1) 薬剤学実習 (2) 薬品試験法実習 (1) 生薬学実習 (1) 総合講義 (2) 卒業研究 (4)
	選択 A系列		物理化学 (3) 有機化学 I (3) ○有機化学 II (2) 薬品分析化学 I (2) 薬品分析化学 II (2) 生理学 (2) ○生薬学 (2) ○放射化学 (3)	生化学 I (2) 生化学 II (2) 衛生化学 (2) 公衆衛生学 (2) 薬物学 I (2) 薬物学 II (2) ○薬剤学 I (3) ○有機薬品製造学 (3)	○薬剤学 II (2) 薬局方概論 (2) 薬事関係法規 (2)
	選択 B系列	微生物学 (3)	病理学 (2) 無機薬品製造学 (2) 微生物薬品化学 (2)	機器分析学 (2) 生薬化学 (2) 鑑識化学 (2) 動物薬品化学 (2) 香粧品化学 (2)	薬品試験法 (2) 衛生試験法 (2) 毒物学 (2)
	選択 C系列		電気化学 (2) 高分子化学 (2)	有機化学 III (3) 情報科学概論 (2) 臨床化学 (2) 薬学英語 (2) 和漢生薬学 (2) 品質管理学 (2) 特別講義 I (2) 放射線生物学 (2) 生物試験法 (2) 栄養学 (2)	薬品製造工学 (2) 薬局管理学 (2) 薬業経済論 (2) 新薬論 (2) 病態生化学 (2) 農薬学 (2) 特別講義 II (2)
	選択 D系列			臨床生理学 (1) 医用電子工学概論 (1) 看護学総論 (1) 臨床検査実習 (1)	
合計単位数		必修 (6) 選択 (47) 計 (53)	必修 (3) 選択 (55) 計 (58)	必修 (3) 選択 (63) 計 (66)	必修 (11) 選択 (26) 計 (37)

卒業条件

一般教育科目
- 人文分野　国語国文学，歴史，倫理学，哲学のうちから……8単位以上
- 社会分野　法学，心理学，経済学，社会学のうちから……8単位以上
- 自然分野　化学(A)，生物学，物理学，数学 I・IIのうちから……12単位以上

外国語科目
- 英語……8単位以上
- ドイツ語はドイツ語 I または II を含めて……4単位以上

保健体育科目……4単位

基礎教育科目……8単位以上

専門教育科目……必修科目……19単位
- A系列より……39単位以上
- B系列より……20単位以上
- C系列より　の取得単位

を合わせて……96単位以上

合計　148単位以上

○印は演習または実験を含む。

ため、卒研生に対しては別に、国家試験形式の総合講義試験を12月20日頃と後期試験の最終日に設定し、必要のある場合は3回目を行い、これに合格しないと卒業できないことになっています。学生時代で最も緊張する時ではなかろうかと思います。卒業時には、学業優秀、品行方正などにより、日本大学優等賞とは別に薬学科賞が毎年5～6名に授与、表彰され学生諸君の励みと名誉になっています。

3.時間割　時間割は朝9時から始まり90分授業が1日4コマ、4時限の終了は夕方4時10分になります。当該年次での単位取得に失敗した場合のために、時間表上で各年次のA、B系列の科目が同じ時限に重複しないように配慮して設置し、また部外単位のD系列は5時限目になる場合があること、そして実

時間割（59年度）

曜		月										火									
時限		1		2		3		4		5		1		2		3		4		5	
		年間		年間		年間		年間		年間		年間		年間		年間		年間		年間	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
1年	A	化学(A) 長谷川(博)		物理学 佐々木		生物学(実習) (隔週)	基礎薬学実習 滝戸 山内	生物学(実習) (隔週)	基礎薬学実習 滝戸 山内			数学I 薄島		ドイツ語I 古屋 内藤		基礎薬学実習 (隔週)	微生物学実習 小山	基礎薬学実習 (隔週)	微生物学実習 小山		
	B			英語I 福井 山本		野本 渡辺(和)	微生物学実習 小山	野本 渡辺(和)	微生物学実習 小山			ドイツ語I 古屋 内藤		体育(甲) 岩本		生物学(実習) 野本 渡辺(和)	基礎薬学実習 滝戸 山内	生物学(実習) 野本 渡辺(和)	基礎薬学実習 滝戸 山内		
2年		薬学実習II (薬化学実習 薬品分析学実習 生理解剖学実習)										薬学実習II	高分子化学 佐藤	薬学実習II	電気化学 香取	薬学実習II		薬学実習II			
3年		鑑識化学 長谷川(博)	薬学実習III	生化学 有吉	薬学実習III	有機薬品製造学 桐沢	薬学実習III	機器分析学 桃沢	薬学実習III			薬学実習III (生化学実習 衛生化学実習 微生物学実習 薬品製造学実習)									
4年		衛生試験法 沢村	新薬論 香取	情報科学概論 徳竹	薬品製造工学 宮尾	薬業経済論 中村	薬学実習IV	薬局管理学 後藤	薬学実習IV			薬局方概論 桐沢・滝戸	総合講義 薬学教室全員	動物薬品化学 村越	病態薬品学 有吉	薬剤学II 岡村	薬学実習IV	薬事関係法規 中村	薬学実習IV		

曜		水										木									
1年	A	ドイツ語II 木村 森		国語国文学 鹿目		法学 小森						体育(甲) 岩本		薬用植物学 水島	薬学概論 斉藤 村越 有吉 中村 黒柳	数学II 小室		微生物学 小山			
	B	化学(A) 長谷川(博)		歴史 山田		心理学 細部		体育(乙) 岩田 宮川				数学I 窪田				物理学 井本					
2年		生薬学 滝戸	無機薬品製造法 徳竹	有機化学I 外山	放射化学 有機化学II 青木 長谷川(聡)	英語IV 坂本		独語III 千田				F4		倫理学 小野(健)		英語III 雨宮			生理学 渡辺		
3年		有機化学III 長谷川(聡)		有機化学III 長谷川(聡)	栄養学 高橋	生物試験法 牧村	有機薬品製造学 桐沢	微生物薬品化学 小山	薬物学 村越・牧村	医用電子工学 概論 内倉		公衆衛生学 沢村	衛生化学 沢村	香粧品化学 佐藤	生薬化学 滝戸	薬学英語 斉藤	薬物学 村越・牧村	生化学 有吉		臨床化学 青木	
4年		薬品試験法 桐沢	卒業研究 (講義を含む)	薬剤学II 岡村	卒業研究 (講義を含む)	農薬学 村越	卒業研究 (講義を含む)	F3	卒業研究 (講義を含む)	F3		毒物学 牧村	卒業研究 (講義を含む)	特別講義II 升水	卒業研究 (講義を含む)	薬学実習IV	卒業研究 (講義を含む)	薬学実習IV	卒業研究 (講義を含む)		

曜		金										土									
1年	A	英語II 森 武田		生物学 野本 渡辺(和)		物理学 (実験) (隔週) 松崎 和田 市東 永井 小山内	化学(A) (実験) (隔週) 長谷川(博) 小沼 久保田 一戸	物理学 (実験) (隔週) 松崎 和田 市東 永井 小山内	化学(A) (実験) (隔週) 長谷川(博) 武 小沼 一戸			体育(乙) 松原 岩本		英語I 亀山 本住							
	B	生物学 野本 渡辺(和)		英語II 森 武田								ドイツ語II 落合 竹内		数学II 小室							
2年		生薬学 滝戸	有機化学I 外山	病理学 桜井		解剖学 渡辺	医学概論 本田	物理化学 佐藤	有機化学II 長谷川(聡)	物理化学 佐藤	放射化学 青木	無機化学 宮尾	微生物薬品化学 小山	薬品分析化学I 桃沢	薬品分析化学II 桃沢			社会学P 大沢			
3年				和漢生薬学 山内		英語V 宮本		放射線生物学 青木	品質管理学 岡村			哲学F・G 遠山		経済学F・G 斉藤(正)		薬剤学I 斉藤		独語IV 森		臨床生理学 渡辺	看護学総論 中村 臨床検査実習
4年		薬学実習IV	卒業研究 (講義を含む)	薬学実習IV	医学概論 本田	薬学実習IV	卒業研究 (講義を含む)	薬学実習IV	卒業研究 (講義を含む)	F3		薬学実習IV	特別講義I 永坂	薬学実習IV	卒業研究 (講義を含む)	薬学実習IV	卒業研究 (講義を含む)	薬学実習IV	卒業研究 (講義を含む)	F3	

習室の都合で朝から一日中講義あるいは実習の曜日が多いことなどが特筆される事項かと思います。

決して詰込みのカリキュラムではなく、むしろ余裕をもって実力の養成や興味のある科目の堀り下げができるように考慮されているつもりですが、"追いかけっこ"になってしまうのでしょうか、学生とのお互の対策が必ずしも同じ方向を向かず良策を摸索しております。

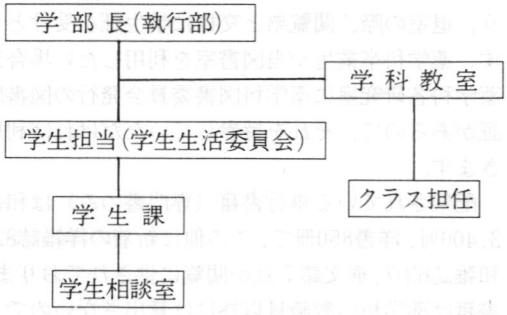
さて、頭書の目的も満足しないままに独断と偏見の記事になってしまいました。お詫び申し上げるとともに、最後に諸兄姉のご繁栄をお祈りしながら失礼いたします。

理工学部学生生活委員会の役割

薬学科学生生活委員長　**佐藤孝俊**

1．学生生活委員会

1）組　織



2）学生生活委員会の位置付け　学生生活委員会は、学部長に直属し、意見の具申、対学生の諸問題について審議検討を行い、具体的な方針を定めると共に、大学と学生のパイプ役として位置付けられている。

2．学生生活委員会の定例会議

毎月定例会議が開かれ、学生生活に関する種々の問題について報告を受け、対応せねばならない場合は検討を加え、学部長（執行部）へ具申する。また学生に関する行事（学部祭、移行生歓迎会等）の予算や日程についての審議も行う。

3．学生相談室

1）運　営　専門家1名と学生生活委員5名（習志野）から成り、相談室に交替で詰めて常時学生との相談に応ずる。なお、室長に学生担当があたり、事務的業務は学生課があたる。

2）現　況　学生からの相談は一般にクラス担任、各研究室の先生等のアドバイスで解決されるが、一年生を中心とした習志野校舎で取扱う主な相談は修学、進路、健康(精神面を含む)、適応、対人関係等が多い。

4．恒例行事

1）スポーツ大会　理工短大スポーツ大会は毎年6月、教職員、学生合同で習志野校舎グランドで行われるが、各競技が円滑に行われるよう学生生活委員は、体育の先生方を補佐し、競技の進行をはかる。

理工学部の教職員と学生がスポーツを通じて一堂に会し、コミュニケーションができる唯一の機会であり、59年度のスポーツ大会は約5000名の参加者により盛大に行われた。

2）学部祭（大江戸祭、習志野祭）　学部祭は例年11月3日の祭日を中心に3日間催される。学生生活委員会は、理工学部の窓口として、学生実行委員から提出された予算、計画書について審議し、学生実行委員と合意の上学生に実施させる。ちなみに今年度の学生の参加パートは約60団体で参加者は見学者を含め駿河台、習志野両キャンパスで9000名程であった。

5．厚生施設の改善と今後の計画

学生生活委員会が59年度に審議し改善を行っている厚生施設は次の通りである。

1）駿河台5、7号館の学生食堂の改善　駿河台5号館の学生食堂を利用する学生が少なくなっていることに対し、学生生活委員会が種々検討を重ねた結果、抜本的改革が必要であることが認められた。

昭和58年8月学生生活委員会内に5号館食堂問題検討委員会がつくられたが、その中での意見をまとめると次の通りである。

①旧食堂は内部（ホール、厨房とも）が汚れて暗いので清潔で明るくする。②厨房設備とホールのスペ

ースのバランスを考え、椅子、テーブルの入替えをする。③他の学生食堂で最近とられているカフェテリア方式に改める。④カフェテリア方式を手掛けた専門的設備業者にレイアウトさせる。⑤食堂の委託業者を選びなおすなどである。これらの意見を学部長（執行部）に具申して、およそ1年の準備期間を経て59年7月から改修工事にかかり、9月に現在の新しい学生食堂が誕生した。この食堂は当初700名の利用者を見込み計画されたのであるが、なかなか好評で1400名程が利用しており、明るい雰囲気の中で食事を楽しみながらコミュニケーション場としても広く活用されている。今後の計画としては5号館食堂の完成にともない、1号館の軽食堂を廃止し、7号館食堂を軽食堂的な方式に改め、5号館食堂と機能させることが検討されており、早ければ60年度内に完成の予定である。

2）工科山の家(志賀高原)の使用禁止と移転　理工学部の工科山の家がある志賀高原発哺地区は地滑りが起こり易く危険地帯であるため、昭和35年頃から、土木、建築の専門家の先生による地盤調査が続けられてきた。58年の調査ではこの附近に大きな地滑りが生じ、地盤の変動が顕著であることが指摘された。また、工科山の家は、建築して25年余を経過し、老朽化が激しく、現在、学生の利用数も減っている。学生生活委員会では学生の利用状況と災害時の避難対策の調査を学部長（執行部）より依頼され、2月の積雪時と6月の融雪時に工科山の家を訪ね次の結論を得た。①学生の利用情況では新幹線の発達、車の所有等により東京から短時間で雪の多い方面に簡単に行ける。また、発哺地区には民間のホテルや山の家が数多く建設され、工科山の家の造りや寮に似た宿泊施設が今の学生に合わなくなってきている。②突発的災害時（地震、地滑り等）には斜面下部に相当広い平地部を造成しない限り、避難学生の安全は確保し得ない。工科山の家は上記の理由で59年4月から使用禁止になっている。今後は冬期のみならずオールシーズンに多目的に利用でき東京から比較的近く、便利で安全な場所への建設が急がれるものと思われる。　以上

薬学科図書室について

薬学科図書委員長　徳竹伯夫

薬学科図書室について簡単にご紹介いたします。

当図書室は昭和50年4月に、2号館3階の230号室に開架式図書室として開設され、活動を始めました。運営には図書委員4名（化学系教員と生物系教員各2名）と司書1名があたり、予算の立案・執行、選書、日常業務等について必要に応じて委員会が開かれます。

開室時間は、月～土曜の10時～17時まで（ただし13時～14時と水曜の13時以降は閉室）で、夏季休業中は土曜と司書の特別休暇（土・日躍以外の15日間）を除き、10時から16時15分まで開室し、冬季休業中は年末年始およそ12日間閉室します。

利用者は主として薬学科教職員と学生を対象とし、学生は入室の際、学生証を提出して図書閲覧票をとり、退室の際、閲覧票と交換に学生証を受けとります。薬学科卒業生が当図書室を利用したい場合は、薬学科各研究室に薬学科図書委員会発行の図書閲覧証があるので、それを持参していただければ利用できます。

配架されている単行書籍（専門書のみ）は和書約3,400冊、洋書850冊で、この他に新着の洋雑誌82点、和雑誌63点、華文誌7点が閲覧に供されております。書籍は薬学科の教職員以外には貸出さないので、コピーサービスを1枚20円で行っています。

当図書室は開架式なので直接本を手にとり読むことができますし、Chemical Abstracts も11巻から現在まで全巻揃っていますが、スペースが大変狭いため雑誌のバックナンバーや利用頻度の少ない単行書籍などは理工学部図書館(駿河台校舎6、9号館)の方に配架してあります。理工学部図書館を利用する場合には卒業証明書を持参して下さい。同図書館は蔵書数208,700冊（うち27,000冊が開架図書）、洋雑誌1,407点、和雑誌1,520点であり、文献検索のための端末機も設置されています。理工学部図書館は

習志野校舎にもあり、駿河台と習志野両図書館にはファクシミリも導入されていて必要な情報のすみやかな伝達が図られています。

以上が図書室についての概略ですが、必要な時はどうぞご遠慮なくご利用下さい。

薬学科卒業生の就職に関して

薬学科就職委員会委員長　**中村　健**

冒頭に、桜薬会諸兄姉の益々の御活躍と御健勝を心からお慶び申しまげます。

先輩諸兄姉におかれては、日頃より、本薬学科卒業生の就職に対し、多くの御協力をいただいておりますこと、学校当局として厚く御礼申しあげます。

ここに本会報の場をかりて、先輩諸兄姉への御礼と最近の卒業生の就職状況の御報告、並びに今後益々の御協力についてお願いの言葉を申しあげます。

まず、最近の卒業生の就職の現況について述べますが、昭和58年3月卒業生の就職状況は、右表に示すとおりであります。この傾向は、ほぼこの数年同様でございます。御参考になればと存じ報告申しあげます。

次に校友各位へのお願いですが、御承知のとおり、全国的な薬学科卒業生数の増大と医療経済の逼迫の影響により、今後の就職状況は益々その激化が予想されます。

かかる状勢のとき、学校として最も頼りになるのが、先輩各位の御協力でございます。

そのような観点から、我々は元より学生も今後何かと御相談や御協力を仰ぎに参る事多きと存じます。その節はよろしく御協力の程お願い申しあげます。

なお、先輩各位の職場において、求人の機会がお有りの場合はぜひとも早めに、学校の方（出身教室か、就職係に）に御連絡をいただければ幸いに存じます。

昨年は、どうやら皆様方の御協力もあり、男子学生は順調に早めの就職が内定されました。ただ、求人体系が企業と異なる病院希望者の就職が困難を来しています。病院勤務の諸先輩で、お知り合いの病院で欠員等が生じて求人が行われそうな状況の際はぜひとも御一報いただきたく存じます。

とくに、女子の求人の機会がある場合には、企業はもとより、研究機関・病院などを多く御紹介いただきたく存じます。

加えて、先輩諸氏より、開局薬局の求人が桜薬会を通じて多く寄せられましたが、学生の希望者数の関係上そのすべてに応じられませんでしたことをお詫び申しあげます。

終りに、日頃の御協力に感謝するとともに、特に桜薬会としても、本年度も、就職関連費の予算計上化など、多大な御協力をいただいた事、併せて本紙面をかりて重ねて厚く御礼申しあげる次第でございます。

昭和58年度薬学科卒業生就職状況

	男(名)	女(名)	計(名)	卒業生に対する割合(%)
昭和58年度卒業者数	72	90	162	
製薬企業	26	13	39	24.07
病院（含研修生）	18	37	55	33.95
薬局	8	16	24	14.81
公務員	3	3	6	3.70
大学教育関係	6	9	15	9.26
教員	1	0	1	0.62
その他の企業	2	7	9	5.56
自営業	2	1	3	1.85
進学	3	0	3	1.85
就職者数	69	86	155	95.68

食べ物のQ＆A

都立衛生研究所　笹野英雄（4期生）

我々の食生活は、食品産業の発展により多様化し、今や居ながらにして世界中の味を楽しむことが出来るようになりました。その反面、食品衛生上さまざまな問題も生み出しています。例えば、食中毒や食品添加物の安全性などです。このような背景から、近年は多くの人々から保健所や衛生研究所などに食品に関する苦情が数多く寄せられるようになりました。そこで、今回、東京都衛生局より「食べられますか？」という本が発刊されたのを機として同窓の皆さんに身近な食品についての知識を深めて頂くために“食べ物Q＆A”と題し、本の内容の一部を紹介することにしました。

1．味に関するQ＆A

Q-1：きゅうりを食べたところ苦味があった。

A-1：苦味成分のククルビタシン（配糖体）のためで、特に頭部に含まれていることが多い。食べても害はない。

Q-2：さといもを煮たところ、エグ味があった。たけのこを購入して、2～3日経ってからゆでたところ、エグ味が強かった。

A-2：チロシンから由来するホモゲンチジン酸と思われる。ホモゲンチジン酸は、さといも、やつがしら、たけのこなどのエグ味の成分である。食べても害はない。またアクの成分であるシュウ酸、シュウ酸カルシウムもエグ味の原因になるが、ゆでこぼすことで除去出来る。（ホモゲンチジン酸を効果的に除去するには、米のとぎ汁、重曹水等を用いるとよい。弱アルカリ性溶液中で煮るとホモゲンチジン酸が分解され、溶出除去されるためである）

Q-3：夏みかんでマーマレードを作ったところ、苦くて食べられなかった。

A-3：実や皮に含まれている苦味成分ナリンギンのためと思われる。食べてもさしつかえない。

Q-4：粉末のマスタード（辛子）をポテトサラダにまぜたところ苦くなった。

A-4：水で溶いて使用しなかったためである。辛味成分の配糖体であるシニグリン（黒辛子）やシナルピン（白辛子）が水で分解されなかったため、辛味でなく、本来の苦味が残ってしまったものと思われる。衛生上問題はない。（シニグリンやシナルピンは通常では苦味だけであるが、水を加えると辛子中の酵素ミロシナーゼにより水分解され、芳香と辛味を発する）

Q-5：開封後1週間経った牛乳を飲んだところ、苦味があった。

A-5：飲用時までに相当の日数を経過しており、その間に低温細菌が増殖し苦味を生じたもので、飲用しない方が良い。（低温細菌―シウドモナス菌等）

Q-6：ドライアイスで保冷してあるシュークリームやアイスクリームを土産用に買い食べたところ酸っぱかった。

A-6：ドライアイスから生じる炭酸ガスが、食品中の水に溶け酸味を呈したものです。原因が炭酸ガスなので、食べてもさしつかえない。

（次号に続く）

著者紹介

笹野英雄、昭和11年3月29日生、東京都出身

（略歴）昭和30年3月、日本大学薬学科入学、34年3月、卒業（4期－生薬学教室）、34年4月、吉富製薬入社、37年6月、同社退社、37年7月、東京都庁入庁、現在の衛生研究所水質研究科勤務を命ぜられる。48年4月、主任研究員、58年12月、副参事研究員（兼職）、57年4月、日本大学医学部非常勤講師、現在に至る。

駿河台コミュニティー

昭和59年度第７回桜実会（薬剤学教室同窓会）を終えて

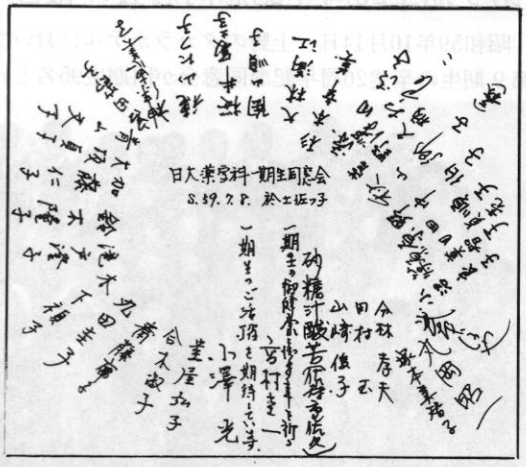
明治大学横を右に折れ、急な坂道を登るとその頂きに山の上ホテルの懐かしいたたずまいがある。日頃学生で賑うこの界隈も、日曜日ともなれば深閑として、都会の騒音が遠い彼方に聞かれるだけである。

11月11日、ここで昭和59年度の桜実会が開催された。桜実会とは薬剤学（調剤学）教室出身者から成る同窓会の呼称である。午後１時近くなると三々五々懐かしい顔が集ってきた。人生の半ばを終えた禿髪白髪の卒業生から、その子息と同年代の卒業生に至るまで、そこに大きな年紀の隔たりはみられたが、同じ教室出身の先輩後輩同志として肩を叩きあいながらの歓談風景であった。

大半の卒業生が在学中兄弟姉妹に対するような我儘をいった岡村先生、後藤先生は、今それぞれ助教授、講師という責任あるお立場にあるが、親しみのある笑顔と若さは以前とまったく変らないものであった。また、今回は新しく本学教授にご就任された斉藤太郎先生―あの関東通信病院薬剤部長先生として誰知らぬ人もない―が御出席され、ご挨拶の中に様々なご教示があり、卒業生相互の情報交換と共に、単る同窓生の親睦会に止まらない有意義な一日であった。お世話になった猪瀬先生がご健康の都合でご出席されなかったのは残念であったが、一同、束の間の懐かしい時の流れに心を残しつつ、次回の再会を約して午後３時散会した。　参加者＝80名　当番幹事＝第７期（中村・吉田）第８期（桧垣・池内）

第１期生同窓会開催に関して幹事より一言

昭和59年７月８日東京「土佐自慢」で開催された一期会には諸先生始め、同窓各位の多数御参加を賜りましたことを先づはお礼申し上げます。昭和31年学窓を去って28年の歳月が流れ、皆よきおやじ、おばさんになっているわけですが、集まった顔は、学生時代のにぎやかさを取りもどし、たつ時間も忘れ楽しく過されたようで、幹事の一人としてまず、安心した次第です。この催には、豊富な料理と長い時



間を提供してくれた会場をお世話して下さった原田夫婦に心からお礼申し上げます。又、再々準備会に際しては、学内の岡村、外山、小山先生、幹事のベテラン木下、石田両君、これ又不慣れな幹事代表を支えて下さった友情には感謝に堪えません。なお、多くの方々が誘い合って出席された様であり、特に日薬の理事として活躍されている室屋女史におかれましては、持ちまえの社交性を発揮され多くの方に連絡をとって下さった努力には頭が下ります。出席であれ残念ながら欠席であっても、近況欄に一杯に書かれたお便りは、友情にあふれたもので、何度も読み返してみました。しかしながら、長い間には伴侶を亡くされたり、愛しいわが子を失って悲しい思いを秘めて出席された方もあり、心から哀悼の意を表す次第であります。我々も50才を過ぎ、人生の盛りを過ぎた感がなきにしもあらずですが、これからもこの会を盛んにして、皆様との友情を新たにしたいと思います。

たいしたお世話も出来ませんでしたが、今後共よろしくお願い申し上げます。又御出席して下さった先生方も大変お元気のようでありますので、これからの会にも、御出席して下さいます様お願いいたします。

幹事　戸塚　淳逸

第９期生20周年記念同窓会の報告

昭和59年10月14日　上野のタカラホテルにおいて第９期生の卒業20周年記念同窓会が同期生95名と先生方17名のご出席を頂き、開催されました。

中野紘一・中村（山形）有宏両君の司会により、幹事代表の挨拶があり、物故となられた恩師と同期生の方々に黙とうをささげた後、桐沢誠主任教授のご挨拶および桜薬会会長の高仲正先輩よりお祝辞を頂き、木村雄四郎先生の乾盃の音頭で懇親に入りました。

出席者のうち多数の方々が20年ぶりの再会ということで、会場は顔と名前が一致せず、名札を確認しながら「しばらく」とか「今どうしてる」とか名刺を交換したりして、同期生も先生方も一緒になって仕事のこと家庭のこと学生時代の思い出などを楽しそうに話している姿があちこちで見受られました。

そしてお酒が入るほどに大きな笑い声や、肩を並べて写真をとってもらったり、また宴なかばでは、先生方一人一人に近況をお話し頂いたりして、予定していた３時間もあっという間に過ぎてしまったような感じがしました。

なお幹事の提案により次回の同窓会を５年後に開くことや、有志によるゴルフ同好会を結成することなどを決めました。

閉会の挨拶は市会議員初当選の梶田裕君が行ない全員から励ましの声があり、最後に中村泉美先生、沢村良二先生の舞いをまじえた日大節を全員で唄ってお開きになり、二次会へと足をはこばせました。

小松康宏

第12期生同窓会の報告

昭和59年10月27日（土）午後3時、東京新宿のセゾンプラザ「花梨」で第5回目の第12期生（昭和42年卒）の同期会を開きました。出席の返事が少なく、幹事として気をもみましたがその心配も吹き飛び、1番乗りした増渕さん（聖マリアンナ医大薬理学教室助教授）から、二次会から出席した荒井君（三鷹市薬剤師会副会長）まで総員31名が出席しました。

遠路はるばるといえる出席者は、いずれも女性群であり旧姓で紹介しますと、小原さん（新潟県）、田中さん（長野県）、田村さん（栃木県）達で圧倒的に女性が多く華やかな会となりました。久し振りの再会のためあちらこちらで話の輪ができ、せっかくサービスしてもらった料理が残ってしまうほどでした。会の後半に、卒論教室ごとに集り各人の近況報告をしてもらいました。また、当日出席できなかった人達のハガキを教室ごとにまとめ回覧させてもらいました。6時過ぎ、歩行者天国でにぎわう新宿大通りを歩いて陳君の世話で予約をしていた二次会の会場へ行きましたが、遠方のため2名が帰ったほか全員が参加したのは驚きで、席数がなくそれこそ膝をつき合わせて昔話や子供のことなどを語り合いました。三次会にも半数以上の人達が参加し、なかなか去りがたい思いがあるのだろうと感じられました。

当日写真を撮ったので、スナップ写真も含め住所録と共に後日発送しました。また出席できなかった12期生全員にも住所録を発送しました。これは幹事の一人である高斉さん（旧姓竹山）の大奮闘によるものです。尚、次回は3年後すなわち卒業20周年記念を古池君の幹事により行う予定であります。

当日の出席者：〔男性〕荒井　兼子　北山　高円　古池　鈴木　広瀬　小清水　〔女性〕宇田川　大塚（田中）　小川（小野）　小野内　池上（福田）　藍原（松井）　武田（外山）　田矢（福島）　田中　冨塚（鍵山）　高斉（竹山）　中島（菅野）　中村（森）原（関口）　原田　長谷川（西村）　藤田（富岡）　星野（小原）　本田（田村）　増渕　皆川　森　渡辺（田村）

丸田修君昭和59年7月死去、合掌。　（小清水敏昌）

山形県に桜薬会支部が誕生

昭和60年2月23日に、山形県に新たに桜薬会支部（支部長・佐藤重佐久、会員数48名）が誕生した。

従来より、支部結成の希望はあったが機会が得られずにいた所、恩師沢村先生が、山形県薬学大会の講師として来県されたのを機会に、盛大な発会式と懇親会を行った。

当日は、会員のほか、来賓として、沢村先生を始め、中村健先生（桜薬会副会長）、伊藤健氏（工科校友会山形支部長）、矢田部茂孝氏（日本大学山形高校々長）、佐々木高政氏（山形県薬剤師会長）も出席され、県支部の誕生を共に祝うとともに今後の結束と会の発展を互いに誓いあっての盛大な懇親会であった。

（幹事・北村光孝記）

保険調剤・中国漢方薬

同順利薬局

薬剤師　馬　国　錦（40年卒）

横浜市中区山下町148（中華街市場通り）

TEL045－681－3155

渡辺俊男先生に感謝する会　予告

渡辺俊男先生は外来講師としての長い本学薬学科での御勤務を３月末日で停年退職されることになりました。先生は薬学創設当時から約30年間、１回生より生理学、解剖学という core 科目の講義と実習を担当され、またこの10年余臨床生理学の講義をもお持ちいただきました。

ここに先生の御略歴等を紹介申し上げたいと存じます。先生は新潟県のお生れで、昭和16年３月慈恵会医科大学を御卒業後、母校の生理学教室西丸教授の門下に入られ、同年10月軍医として入隊し、17年３月北支に従軍され、20年８月本土防衛で帰国の途中、北朝鮮で終戦となりソ連に抑留され、大変苦悩されたそうですが22年12月復員されました。翌春より広島県立医大に転任された西丸教授の下で講師として研究生活を再開され、25年国立公衆衛生院に１年間内地留学なされました。27年お茶の水女子大学に体育生理学の担当として赴任なされました。その後34年から２年間米国イリノイ大学に外遊され、36年帰国後10年間御勤務の後、45年４月より横浜国立大学教育学部に転任され、55年３月御退官なされました。その間本学薬学科の方には29年１回生が３年の時からでしょうか、外来講師としてお出で頂きました。横浜大学の方が御停年になられた55年４月より59年３月まで、本学の非常勤の研究所教授となられ、今年度に至った次第です。

先生の学外での御活躍は皆様も御承知の如く、体育生理の御専門でスポーツ医学に御造詣が深く、また余暇開発等社会医学の分野で雑誌、テレビ、講演等八面六臂の御活躍をなされているタレントでもあります。また静かに書道、絵画に親しまれ、西洋画では何回か入選されて居られます。

先生のユーモラスなお話振り、比喩に富んだ独特な御講義、おみかけとは違った繊細さ、明朗で屈託ないしかも親切でやさしい御人柄のため、多くの渡辺ファンが居った様です。

私共薬物の教室員は生理学、解剖学実習のお手伝いをしながら、種々勉強をさせていただきました。私も35年日大に参りまして翌36年より約24年間公私にわたり昵懇にさせていただき、本当にいろいろとお世話になりました。時には随分我儘なことを申し上げたこともありましたが、厭な顔一つなされず快くお引受け頂いたり、種々感謝とお詫びの気持で一杯です。

先生の長い間の御貢献に対し卒業生、教職員一同集い、５月26日（日）13時より、市ケ谷の私学会館で感謝する会を催すことになりました。皆様の御参会を頂き、盛大な会となりますようにお願い致します。

（村越　記）

保険調剤

有限会社 たけや薬局

薬剤師　鈴木鎮世（41年卒）

川崎市川崎区堀之内町３番地13

ＴＥＬ044－222－7272

「里見政吉先生に感謝する会」の報告

昨年5月27日（日）に、「里見政吉先生に感謝する会」がキャピタル東急ホテルで盛大に開催されました。先生は名誉教授になられましたので、感謝するとともにお祝いを申し上げ、大変喜ばしい会になりました。来賓としてご参会いただいた薬化学教室初代の教授でいらした黒柳惣十先生が乾杯のご発声をして下さり、会も一段と盛り上がりました。ご参会いただきました257名の皆様、また記念品代をご拠出下さいました358名の方々、そして会の開催にあたり準備や整理にご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

当日会場では、感謝の意をこめて花束と記念品を差し上げ、ついで里見先生ご夫妻を囲んで学生生活を懐かしみながら楽しいひとときを過ごすことができました。先生にも大変喜んでいただけ、皆様のご好意に重ねて御礼申し上げる次第です。なお、里見先生から研究発表論文集をいただき、先生のご研究の業績を拝見することができました。後日、会場での記念写真をアルバムに編集して、芳名帳および色紙とともにお届け申し上げましたことと併せて、会の決算を下記のようにご報告いたします。

決算報告

収入		
	会　費	3,084,000
	記念品代	840,000
	合計	3,924,000
支出		
	祝宴会費	2,451,120
	印刷費	160,000
	雑　費	212,880
	記念品代	1,100,000
	合計	3,924,000

薬学科教職員代表　桐沢　誠

桜薬会々長　高仲　正

里見先生に感謝する会
参会者および記念品代ご拠出者ご芳名

辰野高司・木村雄四郎・立山弥七・猪瀬秀雄・中村泉美・山本純子・黒柳惣十・桐沢誠・滝戸道夫・沢村良二・村越善衛・有吉歌子・長谷川稔・佐藤孝俊・斉藤太郎・宮尾利政・渡辺俊男・桜井映子・越阪部俊子

1期生　飯田龍男・石田隆夫・岡村信・加藤嘉久・木下肇・木下禎子・小山隆・陶山順子・瀬川祐司・戸塚淳逸・外山美代子・長島幸子・新村宗敏・原田貞亮・原田順子・森山芳昭・分林孝夫
2期生　石塚光二・高木茂夫・高仲正・田中陽子・千葉胤昭・鶴田実・宮尾洋子・森田允子・若松佳子
3期生　内田朝子・大川規一郎・大川和子・金子佐和子・国安佳子・雑賀昭助・桧山玲子・徳竹伯夫・徳竹喜子・中村勝義・中村健・西尾淳子・根岸純子・八下田文江・藤野睦夫・宮川素子・毛利正・山本庸子・横山敦
4期生　有本亨・石原敏子・伊藤其治・浦野保・大島芳郎・加藤敬一・椛沢洋三・木村清・小林早苗・角田吉弘・高梨久美子・高橋周七・南部都・新村節子・山内盛
5期生　尼崎玄之助・碓井貞弘・大河内宏明・香取悦・鈴木重文・高田満・高野俊彦・豊田亮三・長谷川明・波多和人・山内育子
6期生　秋田智之・有田睦治・石塚起久子・景山洋子・小林晶子・後藤博子・後藤文男・小林一雄・小林陽三・坂本寿子・坂本寿三・渋江洋介・清水公乃・鈴木純子・草間義道・玉田輝己・富田貞子・鳴海紀代子・吉村幸子・長谷川生子・藤本康雄・本多務・前田敏晴・町田巌・三股輝夫
7期生　板橋弘・市川美知子・伊藤善明・今井康雄・小幡強・上谷知子・岸方子・小山征治・田中孝治・得津清二・二川博子・藤原充雄・町田實・間瀬泉・峰島高子・守屋芳子
8期生　青木正忠・秋山紀美代・石川将一・泉川碩雄・形浦和子・久保田昂・小山己知子・鈴木郁子・高松田鶴子・武井侑代・千葉貴司・豊島清麿・永井一正・畑中耕一・水村順子・山口悠紀子・山崎純弘・諏訪邦子
9期生　赤川みゆき・新井清司・池田貞男・礒部公明・小野寺美智子・加藤英三・加藤湛・鎌田邦栄・木村秘子・阪場建司・杉山義夫・関良子・高井晶子・高橋登志子・田辺昌弘・田辺文子・田村行弘・塚本哲也・津田百合子・長沼邑子・中村有宏・秦邦子・原田貞雄・広瀬慶子・星野律子・増木良子・渡辺和子
10期生　朝飛宏子・榎本英機・太田健三・大山喬子・加藤祥子・川神邦江・木村由美子・栗原功・近藤千代子・斉藤重野・坂田達哉・坂田英明・佐藤良夫・佐藤富子・竹田隆子・筒井力彦・長谷川紀子・牧村瑞恵・真下京子・森田洋子・横井幹枝
11期生　浅野千代子・井上清明・太田和夫・奥沢尚子・樫本親房・金子節子・加納節夫・城所晋平・小林正子・城之内マサ・高松良子・中島卯一・西山千恵子・長谷川寿男・長谷川満喜子・灰原義夫・三浦真人
12期生　浅野真利・東重雄・荒井正雄・池上富貴子・岩村博雄・岩村佑・北山裕・高円誠一・高円澄子・嶋村勝彦・嶋村佳子・野沢克己・服部秀代・原田隆子・本田泰子
13期生　藍原恭子・赤松俊明・板倉敏夫・上野直毅・小川義和・小野里和子・栗山忠俊・栗山衛・小林繁・坂田絹子・高橋繁治・玉川欽也・中井征子・中村欽一・中村光子・松田信行・村山暉之
14期生　相見光郎・井関知子・内倉和雄・奥山義雄・片桐憲一・加藤康子・小金井佳世子・小林千江子・渋谷淑子・田口耕二・細田庸子・山下歌子
15期生　伊藤正規・稲垣由美子・内田仁・岡野忠雄・笠松隆洋・草間貞・栗田久子・道祖土勝彦・高橋正彰・田村杜詩子・中溝薫・中村和夫・鳩貝好枝・平井淑夫・平田慎一・藤谷典子・牧村紀子・宮森正子・鎗田一子・渡辺好子
16期生　天野勉・伊東伸佳・川手章子・木原良一・倉持光幸・倉持佐与子・郡司孝幸・小輪瀬勉・酒井秀量・杉山富美子・内藤幸雄・中村正広・成川玲子・野口幸一・深田るみ子・真鍋純子・山内慶一・山田陽・渡辺治子
17期生　会田直孝・有山良一・石黒美津子・伊東和喜・内倉美津枝・片岡孝子・北中進・塩崎よし

子・杉原知恵子・鈴木千代子・鈴木ひろみ・高木友直・土田節男・富沢恒夫・中村光一・二木あつ子・根本景子・早坂ノリ子・二俣哲夫・牧野照男・松沢克次・真鍋博雄・宮崎格一・吉田守
18期生　青木豊美・江波戸寛治・大沢広喜・岡村光夫・小川希久子・奥谷由美子・柏村豊子・加藤裕・樺島順一郎・菊地つや子・斉藤好広・道祖土隆子・佐野加代子・鈴木美知代・高橋早苗・安川憲・山根典子・山本美枝子
19期生　伊原千秋・磯田朱実・岩上正明・岩上昌乃・上田春子・大嶋陽子・岡安孝雄・小林康泰・醍醐邦子・千原克夫・土屋洋一・坪川博則・伴野和夫・中村謙二・永山徹・西岡光政・羽島建・藤田敬子・保屋野陽子・松村昌子・矢萩敏子・山上和夫・横溝始
20期生　大野秀利・大野雅子・金井覚・金井智恵子・草間国子・小池勝也・立川真理子・中村由紀夫・西川頼子・福原祐子・藤田早苗・山口やよい・山口裕子・山崎枝子・横山としよ
21期生　秋山憲名・飯塚一彦・井口法男・小野沢隆志・金児朋子・唐沢佳孝・刈部敏夫・河村俊一・小峰和美・坂田正樹・周佐紀子・高田義郎・豊田隆・中宮章憲・樋口建・樋口弘子・松井正・本橋重康・森田尚子・吉田早苗
22期生　伊田展代・伊藤隆康・伊藤親・伊藤裕美子・伊藤芳久・井上孝子・上田貴久子・岡田知幸・岡田秀己・小川直子・加瀬景子・沢木康平・高畠亨・田沢則子・中本正樹・成瀬道彦・二河和子・平野和子・広本正司・藤岡満・細見聖文・望月君江・諸沢博美・安川阿良里・山口文恵・山口洋子・山口洋・横田弘美
23期生　青木修・池田昇志・小林茂子・境沢啓子・高橋光枝・土橋和正・永野昌子・永野陽子・馬場温・副島昭仁・三宅宗晴・横山亮一
24期生　阿久津裕子・石川久子・石塚善久・磯貝純子・磯野秀和・岩田たか子・大塚一記・大塚正征・大橋教子・岡山得秀・小倉明子・小沢和之・北中友子・小島和夫・佐々木啓子・清村陽子・商増智・商道代・須田純江・砂堀みどり・高野貢司・田崎千鶴・西川真樹子・藤田進・藤村幹夫・古屋麗子・松本道明・松本明美・三浦安寿・三浦良江・宮内慎輔・茂木博文・山口良夫・横井泉
25期生　飯塚直人・岩藤裕一・梅沢芳史・梅津博行・尾熊丈実・梯弘子・上條増富・喜多志津子・小林馨・佐久間満津子・関晶子・曽我部優子・中村正敏・長山幸太郎・南雲恵子・名倉弘明・馬場雅之・福島信子・伏見恵子・星野良子・譲原康夫・弓北智子・横尾順子
26期生　飯塚智子・井熊一宏・伊藤美智子・岩本厚子・江田伸子・榎本泰子・大沢聖子・大野扶美子・緒方恵理・木村秀幸・木村智子・木村文恵・郡司明彦・小池昌子・甲州康弘・公山由紀夫・坂田敦子・佐藤明広・芝絹子・神宮由幸・高松丈嗣・田村博子・中田滋子・沼田仁子・野原秀子・蓮池由紀子・原口真奈美・星野良市・増田清美・宮下敦・村岡邦子・森部秀昭・矢部千恵子・湯浅多美代
27期生　飯塚信二・飯塚進・五十嵐寛能・石毛久美子・卯木規子・大畑隆文・岡野京子・加藤綾子・久米実・栗原孝・小西純一・遠山立子・中村不二彦・中村慶子・長張孝子・馬場ゆかり・福富大樹・藤田宏志・横松和明・米沢美恵子・六川邦明・
28期生　安藤敏・飯川知智・石川隆志・石塚規子・伊藤由美・上野基樹・加藤祐二・川上千秋・小林久美子・島崎幸弘・島田弘子・信賀久美・菅野敬市・杉浦貞美・高島康浩・立川尚子・田中すみれ・田中七重・中川幸雄・長谷川隆子・長谷部幸子・羽石一寿・久田真理子・藤代恵美・前田行俊・真塩和美・三宅治子・山田孝志・山田雅美・吉村直人
29期生　石田正弘・板子佳正・岩松紀子・植原政彦・・内田美智子・内野淳子・梅田実・榎本悦子・加藤順子・狩野哲也・隈伊庸子・蔡曦・佐香厚・佐々木勲・末吉みゆき・田口広樹・田中明美・田部井一・津嘉山祥子・手島葉子・土井美奈子・中井恵美子・中内正人・中野和美・中村直美・野上恵子・福島由美・正木隆彦・三浦芳恵・宮森匡子・向田聡・村田佳子・森山祐一郎・八木裕子・渡辺茂和

事務局だより

日本大学桜薬会

昭和59年度総会、開催さる

事　務　局

昭和59年5月27日（日）正午より東京キャピタル東急ホテル“日光の間”に於いて、小山隆（1期）司会のもとに、通常総会が開催された。

開会の辞(司会)、会長挨拶(高仲　正氏)、名誉会長挨拶（桐沢　誠薬学科主任教授）に続き、議長鈴木康雄（2期）副議長内倉和雄（14期）書記草間貞（15期）井熊一宏（26期）が選任された。

議事は会則に従い、審議され原案通り承認された。

本年度は役員改選期で各期推薦の役員は原案通り可決され、理事の互選により、高仲　正氏（2期・国立衛生試験所薬理部長）を会長に選び、総会で承認をうけた。高仲正氏は前期に引続きの就任である。

議事録抜粋

庶務報告

○会員（昭和59年4月1日現在）

	（名）	前年比
正会員	5,737	＋170
学生会員	958	＋ 84
特別会員	36	0
準会員	0	0
計	6,731	＋254

○役員会

常任理事会	1回開催
理事会	2回開催
委員会	2回開催

○支部会合他

山本先生に感謝する会　58．5．23
於 東京都 パレスホテル　高仲会長、桐沢先生 他 560名

8期生卒業20周年記念同窓会　58．7．3
於 東京都 山ノ上ホテル 高仲会長、桐沢先生 他 85名

秋田県支部　58．10．22
於 秋田市 浜乃屋　高仲会長、加賀谷氏 他 12名

杉並区支部　58．11．23
於 東京都 大珍楼　高仲会長、桐沢先生 他 30名

宮城県支部　59．3．29
於 仙台市 龍天江 中村副会長、桐沢先生 他 43名

事業報告

○会　報　発　行：桜薬会会報８号
　発　行　日：昭和59年２月８日
　発　行　部　数：6000部
○会員資料の整備：
○会員名簿(昭和57年版) 追補の発行
　追　補：昭和58年３月25日現在
　　卒業生　174名　収載
　追　補［２］：昭和59年３月25日現在
　　卒業生　170名　収載
○就職あっ旋(求人、求職)：44件
○地方支部会の開催：庶務報告の通り
○就職説明会：１回
○臨床検査実習補助；

財務報告

年度決算(昭和58年４月１日～昭和59年３月31日)

○収入の部　(円)

	予　算	決　算	増減(△)
年　会　費	8,000,000	3,010,000	△4,990,000
工科校友会部会費	100,000	150,000	50,000
工科校友会割戻金	200,000	132,500	△67,500
利　子	250,000	250,585	585
雑　収　入	200,000	76,000	△124,000
前年度繰越	810,082	810,082	0
計	9,560,082	4,429,167	△5,130,915

○支出の部　(円)

	予　算	決　算	増減(△)
印　刷　費	2,800,000	715,410	△2,084,590
通　信　費	1,700,000	756,624	△943,376
人　件　費	800,000	188,710	△611,290
旅　費	300,000	58,570	△241,430
会　議　費	500,000	153,000	△347,000
支部等活動補助費	400,000	80,000	△320,000
就職関係費	100,000	216,290	116,290
事務局費	500,000	198,669	△301,331
名簿積立費	300,000	300,000	0
予　備　費	1,360,082	960,740	△399,342
次年度繰越	800,000	801,154	1,154
計	9,560,082	4,429,167	△5,130,915

預貯金

普通預金	101,784円
振替貯金	699,370円
計	801,154円

基金および積立金

定期預金(基金)	1,980,000円
定期預金(名簿)	1,095,400円
計	3,075,400円

特別会計(名簿)決算

○収入の部

	予　算	決　算	増減(△)
工科校友会補助	1,300,000	1,300,000	0
有料配布	3,500,000	2,030,000	△1,470,000
寄付(広告掲載)	2,000,000	1,480,000	△520,000
計	6,800,000	4,810,000	△1,990,000

○支出の部

	予　算	決　算	増減(△)
調査費	900,000	0	△900,000
編集費	1,000,000	250,000	△750,000
印刷費	4,000,000	3,718,000	△281,500
発送費	800,000	343,100	△456,900
予備費	100,000	3,000	△97,000
名簿積立	0	495,400	495,400
計	6,800,000	4,810,000	△1,990,000

前納会費積立

定期預金	5,294,000円

内訳

	(円)	前年　本年　(名)　(円)
昭和59年度分	2,164,000	((847＋236)×2,000)
昭和60年度分	1,338,000	((492＋177)×2,000)
昭和61年度分	984,000	((330＋162)×2,000)
昭和62年度分	470,000	((88＋147)×2,000)
昭和63年度分以降	336,000	((131＋37)×2,000)
計	5,294,000	((1,888＋759)×2,000)

監査報告

昭和59年５月14日

日本大学桜薬会
　会長　高仲　正殿

日本大学桜薬会

監事　田村行弘　印

監事　田辺滋允　印

監事　加納節夫　印

監査報告書

昭和58年度　日本大学桜薬会の収支決算書について　監査の結果、適正なものと認めます。

以上

事業計画

○会報発行

○会員資料の整備

○就職あっ旋（求人、求職）

○地方支部会の開催

財務計画

年度予算（昭和59年4月1日～昭和60年3月31日）

○収入の部

	当　年	前　年	増減(△)
年　会　費	3,500,000	8,000,000	△4,500,000
工科校友会部会費	150,000	100,000	50,000
工科校友会割戻金	120,000	200,000	△80,000
利　子	250,000	250,000	0
雑　収　入	200,000	200,000	0
前年度繰越	801,154	810,082	△8,928
計	5,021,154	9,560,082	△4,538,928

○支出の部

	当　年	前　年	増減(△)
印　刷　費	1,200,000	2,800,000	△1,600,000
通　信　費	1,420,000	1,700,000	△280,000
人　件　費	200,000	800,000	△600,000
旅　費	100,000	300,000	△200,000
会　議　費	200,000	500,000	△300,000
支部等活動補助費	100,000	400,000	△300,000
就職関係費	100,000	100,000	0
事務局費	150,000	500,000	△350,000
名簿積立費	300,000	300,000	0
予　備　費	451,154	1,360,082	△908,928
次年度繰越	800,000	800,000	0
計	5,021,154	9,560,082	△4,538,928

会務報告

◎理事会　59．6．15　於　841教室

出席者　会長：高仲、副会長：中村、前田

理事：31原田、木下、川口、新村、32高木、33中村、大庭、毛利、高取・小川、34島峰、35君島、38畑中、伊藤、39渡辺、54石塚　学内、岡村、徳竹、山内、青木、内倉、小池、井口、井熊

以上　27名

審議事項

1．昭和59年度桜薬会運営について

会長より学部昇格に関して、積極的に活動していく意向が述べられ、桜薬会薬学部設置推進委員会（仮称）を設置することに決定した。

2．委員会構成について

委員会・委員長を決定し構成委員は次回理事会で決定することとなった。

総務委員会　委員長　中村　健（学内）

事業委員会　委員長　笹野英雄（4期）

財務委員会　委員長　前田敏晴（6期）

薬学部設置推進委員会

委員長　高仲　正（2期）

事務局　局　長　山内　盛（学内）

3．工科校友会役員について

部会長、理事11名、代議員58名を選出した。

部会長：高仲　正　理事：高仲　正・岡村信・鈴木康雄・中村　健・徳竹伯夫・笹野英雄・椛沢洋三・山内　盛・君島正彬・前田敏晴・藤原充雄・青木正忠

代議員：各期常任理事他1名

◎理事会　59.12.10　於　薬学科会議室

出席者　会長：高仲、副会長：中村、笹野、前田

理事：31木下、新村、戸塚、32高木、33毛利、小川、34角田、35君島、36松島、38畑中、石川、伊藤、39渡辺、48樺島、三山、51河村、学内、岡村、徳竹、椛沢、山内、内倉、小池、井口、井熊

以上　28名

審議事項

1. 桜薬会規定について
桜薬会委員会規定、支部規定、慶弔規定が承認された。

2. 委員会委員について
委員会名簿を承認（名簿は次号掲載）

3. “渡辺俊男先生に感謝する会”について
60年5月26日に開催することに決定、幹事に薬物同窓会を選出

4. “有吉歌子先生に感謝する会”について
前例に従って昭和61年度に開催出来る様、準備することとなった。

尋ね人　　事務局

桜薬会も会員数6,731人の大きな世帯となりましたが、残念なことに、下記の方々が行方不明、住所不明となっています。心当りの方がいらっしゃいましたら、御手数でも、事務局又は卒論教室迄、一報下さる様御願いします。

101 東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部薬学科
日本大学桜薬会事務局　　又は
卒　論　教　室　宛

31　大西清之・尾崎千恵子・加来純子・加藤克好・穐山たつ子・斉藤静江・佐藤千束・鈴木智晴・添田清子・原田二郎・丸山秀子・村上恭子　32　鎌田牧子・佐藤祐子・沢田博・田丸規子・富永倭子・針生和子・牧野純一・道田秀夫・茂木英生・山田允子　33　石倉宗治・一藤宗治・菊地政子・栗原明子・小泉あき・篠崎睦子・白鳥隆子・鈴木雅・鈴木昌子・塚田房・野原英之・星野泰子・細野美奈子・真壁克明・吉川桂子　34　秋島たか子・朝倉昭・石井澄夫・石井二三夫・石川博子・伊藤小枝子・江口寿之・大村悌次郎・小野政幸・角田律・鑣波和子・笹掛京子・周松原・高橋満里子・田墨暁美・種谷サトミ・天羽訓子・西山譲・長谷川清子・馬場幸子・樋口静子・深見繁信・船橋和子・水口ミサオ・三宅継夫・渡辺健　35　新井英三・川野仔司・中村稙延・西恭子・藤江郁子・古谷良弼・三好澄江　36　諫山和子・片掛友厚・加藤順・加藤都喜雄・近藤朝子・崎山栄子・渋谷健悦・鈴木桂子・鈴木啓之・高山孝子・中嶋量之・成宮可弥子・野本陽子・橋本征子・福田敬子・藤本欣伸・三沢光代・山崎スミ子・渡辺繁　37　荒川秀子・加藤五三子・菊池道子・工藤節夫・星川ノブ子・堀光雄・山本如子　38　石橋正子・太田一昭・岡沢紘子・土橋賢一・中村一郎・藤岡真佐子・三浦庄二・山口有三・大和正・横山やえ子・渡辺寛美　39　石出豊州・小野佳子・斉藤美紀・鈴木英雄・高橋実・中井敏子・松田清子・山口芳弘　40　今元賢一・上原弘子・大野牧子・大村功・小沢順・佐々木耕郎・笹山浩三郎・相馬清一・田川慶子・田川正信・辻野英子・奈良原はつ代・野本和江・三井田洋子・山辺一弥　41　石川直代・井上清明・内山年代・大崎市郎・大沢正則・太田潤・岡崎そのえ・折原俊己・樫本親房・塩崎益郎・重田慶子・関元喜久子・富田暁子・柳田美弥子・若林和子・渡辺制子　42　浅井千代子・畔上盛文・安藤節子・後藤知子・小谷野栄子・竹内幸子・田場幸子・中川千恵子・深野和恵・牧田健夫・山崎忠男・山崎輝子　43　相場典昭・茨木宏夫・岩崎史郎・河西典良・上倉サト子・新垣道子・勝呂幸代・玉川欽也・寺西俊子・中井征子・中村和子　44　小川仁志・加藤健二郎・漢那朝安・国上義躬・黒金幸子・河野武博・今睦子・清水喜代江・白河宏恵・杉山京子・鈴木淑子・素村藩彦・田崎靖人・中田耕二・速水翠・平沢清彦・松室さゆり・吉田芳子　45　赤石百代・揚原富子・岩山泰子・小野山郁子・金子敏江・嘉陽敬明・国場幸枝・桑田盛彦・向後英彰・佐中規子・菅森幸子・高橋洋子・田村路子・辻紀子・辻田千佳子・初鹿英司・広沢敏子・町田清美・山田康子　46　泉広栄・牛島幸子・王須美・長内孝之・海沼詠子・神谷政男・河井真吾・川島樹一郎・菊地雅代・郡司孝幸・小池治代・小林正子・佐々木孝敏・貞広淑子・篠崎俊行・嶋田桃代・朱秀理・高田恩・高田循一・中田盾子・中原晋・長谷淳一・二宮和子・福井隆吉・福田晶子・松下行雄・宮岡恵子・山内千佐子・山本恵美子・和田守・石黒美津子・石野喜子　47　伊勢晶子・植松益子・太田文子・大谷恵一・小野洋子・来住毬子・木下恵子・桜井剛・篠崎由行・白崎裕子・鈴江慶子・鈴木巨行・相馬道郎・高岡美枝子・高橋千賀子・高畑悟・高村秀子・服部智存・原正二・藤沢明義・古元喜美子・佐久間憲子・堀場秀子・松浦幸子・松岡美都子・松永てる美・向山孝史・矢野和子　48　阿部芳拡・上田公明・大野雅之・高田峰・浜田博・藤井康三郎・藤崎則夫・山崎美恵・渡辺哲夫　49　伊藤朝子・井上和子・臼田百子・海東浩・影山潤子・上条明子・河内偲月子・久徳治子・近藤和子・坂口富樹・鈴木祥子・高橋章・辻永順子・林光利・星野えり子・星野哲雄・星野敏志・万年芳江・安武恵美子・柳沢繁司・山岸昭平・山田周一郎・吉岡晴美・渡部寧　50　浅井敬代・岩下幸子・海野玖二子・斉藤文明・重枝節子・瀬部芳貴・土屋博紀・角田健二・藤本ひとみ・松葉安弘・藪野英信　51　国徳順子・大橋英雅・桑名尚子・高野恭子・辻幸男・中山通夫・永田博・萩原大作・吉井正吉・米村春美　52　内川清次・大木佐知子・沖山勝彦・奥村節夫・小籏孝子・黒木貴久枝・佐藤正憲・佐野洋子・塩田美知子・志甫洋一・関山明・関山洋子・浜中扶美子・林節子・藤田学・本多陽子・柳沢瑛子・山崎一夫　53　秋元真寿美・浅野邦彦・石垣和美・上野二・加納真治・川崎正人・久保政子・栗林正彦・白川喜子・高野英夫・武田健・角田光宗・萩原進・奏ひとみ・藤山恵次・松本正子・山田徹・吉崎泰人　54　北村由美・久保田季治・原田均・秀島綾子・平泉久幸・深沢厚子・松井一秀・松本郁子・宮里淳・宮下健一郎　55　奥津秀樹・加来恭一・越田啓子・茂木桃子・薗部誠　56　坂本朋子・松村昇・山口みどり　57　斎藤泰共・信平智雄・渡辺久美子

㈲ 大 手 薬 局

薬剤師　佐藤良夫（40年卒）　佐藤富子（40年卒）

◎本店　長岡市大手通2丁目　TEL.0258（32）2382
◎新潟店　新潟市本町通六番町1107　TEL.0252（23）5330

会費納入のお知らせ　　財務委員会

会費納入して頂きました会員の方々の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがございましたらお知らせ下さい。

会費納入者　昭和58年11月15日～昭和59年3月31日

昭和58年分

31　加賀谷進二・篠美智子・外山美代子　32　石橋義弘・斉藤允子・沢野俊彦・羽布津雅子　33　星田郁代・松本幸次郎　34　沢地次雄・守護哲二　35　高野俊彦・野村計子　36　斉藤清人・星野克夫　38　寺沢正孝　39　小田昌紀・高井晶子・田村行弘　40　内山勲・近絢子・山口乗子・高田定一　41　遠藤靖子・大河原明子　42　染谷坦　43　秋山美智子・戸田繁喜　45　有田三津代・伊藤正規・太田正昭・戸田仁・佐藤勢津子・森本薫・森本佳子・山崎晃　46　原敏富　47　石田哲子・中村光一　48　高橋早苗　49　青木裕子・蕪木秀夫・板倉礼子　50　池松日出子・伊東一彦・横山としよ　51　片柳悦子・鈴木孝・村田大作　52　三森美紀子　53　小林茂子・馬場亮子　54　本木義雄・金子雅春・付々木雅子・島村純子・福岡誠次・藤村幹夫　55　穴倉聖子・星原宏樹・御園高弘・山崎健　56　中田滋子　57　滝正幸　58　稲葉匡世・沢田弘美

昭和58、59年分

31　川口洋史　33　徳竹伯夫・徳竹喜子　34　浦野保・山田茂　35　里見章　36　後藤博子・鈴木保孝・塚本吉紀　37　秋山恵　40　二井内悦子　46　田口博　49　穴戸美根子・伴野和夫　52　日谷和江・長瀬健市　55　関晶子・牧野俊猛　56　加藤善久　57　長張孝子

昭和58～60年分

33　浜谷久子　42　本田泰子　48　渡辺大一　52　植木倫子　55　山口みどり

昭和58～62年分

31　小山隆・吉村恭子　33　渡辺恵見子　34　古賀恒雄　36　五十嵐良子・長滝久枝・吉村幸子　38　小山巳知子・三枝成男・桐谷利子　40　米川幸子　47　北中進・千葉真知子　50　福原祐子　53　石塚典子・阪本智子　54　今村知子・北中友子・玉野文久　55　浅野久美子　56　浅野康子　58　中村長三郎・高橋あけみ

昭和58～63年分

若林卓磨

会費納入者　昭和59年4月1日～昭和59年12月31日

昭和59年分

32　松江信佳　33　大川規一郎・檜山玲子　34　木村清　35　竹内直之　38　付野紀代子　42　平野孝子　45　岡野忠雄・荻原勉・宇野沢まり子　49　横溝始　50　小沢悦子・横山宗彦　51　石田制利　52　種井政春・高畠亨　53　阿部健一　54　大塚正征・小川耕造・沢島千恵子・竹文明　55　末松隆一・馬庭弘毅　56　井熊一宏　58　杉浦貞美　59　安西裕司・池田奈津江・宇野隆司・大久保明子・大久保浩・太田真由美・大野雅美・河本雅夫・橘川薫・工藤喜代美・後藤明彦・坂下静子・付藤義人・猿渡智子・鈴木美和・高村真奈美・瀧昭則・鶴見和代・巴祥子・新堀文子・花沢みどり・福山久美子・毒島弘樹・細田隆介・宮野慎也・宮森匡子・山寺令子

昭和59、60年分

32　伊勢美佐子　33　伊勢忠・金田利之　37　松山裕治　38　内田真紀子　39　加藤英三　40　朝飛宏子　44　佐藤裕子　45　福野剛樹　48　斉藤好広　53　江口幸典　58　山田雅美　59　板子佳正・伊東斉智・佐藤順・関浩道

昭和59～61年分

33　清本和子　59　川崎雅博　59　飯島勝夫・新朽弘子

昭和59～63年分

31　瀬川祐司・山崎俊子　35　長谷川明　36　小久保正雄　41　小林正子　43　小林繁　47　吉野美佐子　52　藤岡満　53　戸野佳彦　54　山口良夫　56　高紫泰子　57　福富大樹　58　伊藤由美　59　青木貴子・青木三恵子・秋元香・安達美雪・伊尾礼子・池田いづみ・石川達也・石田正弘・伊藤文子・井上静・井上晴美・岩松紀子・上田順子・植原政彦・内田美智子・内野淳子・梅田実・榎本悦子・江幡真哉・大賀良一・大垣秀夫・大友ゆうみ・岡本洋子・小川慶子・小倉さわ子・小笹晴一・小津奈美子・小野明美・小野田学時・小野田晴美・片桐美佐子・加藤泉・加藤美奈子・加藤順子・門井功・金原清美・狩野哲也・鎌田隆・川島裕幸・川田博久・川名あけみ・川辺良樹・神田佳津子・菊岡孝子・菊地早苗・岸本達人・木所克也・木村博昭・黒田彰子・小久保緑・小嶋鈴江・小早川隆・小林美鈴・吉田昌利・斉藤香織・斎藤今日子・斉藤尚登・斎藤裕美・道祖土靖恵・佐香厚・佐々木勲・佐藤三恵子・塩川高・下平正子・新保恵里・末綱光子・末吉みゆき・杉本修・鈴木宏和・関口真理子・関根貴子・高野有子・高橋直樹・田口広樹・武井英二郎・田中明美・田中真一・田中裕子・田部井一・田部井祐子・千葉直樹・津嘉山祥子・手代森光仁・手島葉子・戸田優衛・戸田玲子・豊田猛・土井美奈子・中井恵美子・中内正人・中野和美・中村枝留実・中村直美・野上恵子・波多江則子・原島正明・馬場久江・馬場麻里・日高慎二・広瀬正貴・福島由美・古畑雄司・曲淵玲子・正木隆彦・三浦芳恵・向田聡・村田佳子・目戸順子・毛利玲子・本吉俊也・森山祐一郎・八木裕子・山路茂一・山田幸次・山本紀夫・吉竹充・若松利尚・渡辺茂和・渡辺千都子・渡辺実

おわび

昭和57年版名簿は発刊に際して会員各位から多大な援助を受けて、昭和58年3月に刊行されました。特に117名の方には広告（資金援助）をいただき巻末に収載いたしました。しかるに　肝心の広告掲載に脱落があることが最近わかりました。これは編集にあたりました事務局の怠慢です。心よりおわびします。今号に広告掲載をさせていただくことで御許しいただきたく御願い致します。

事　務　局

◎編集後記

陽春の候を迎えて会員の皆様には各方面で御活躍のこととお慶び申し上げます。

本会報8号が昨年2月8日発行されて以来、委員の改選等のため遅れておりましたが、本日やっと9号をお届けすることができました。今号では学内に重点を置き、「母校・教育現場から」ということで、薬学科内に設置されている4つの委員会の活躍ぶりを紹介しています。また連載ものとして「食物のQ&A」を載せました。実際にこの方面の研究に携わっている笹野委員の執筆によるもので今後に御期待下さい。新しい編集委員は笹野(3)、青木(8)、岡村(1)、鈴木(康)(2)、金西(6)、畑中(8)、坂田(英)(10)、木村(10)、内倉(14)、大川(18)、井口(法)(21)、大賀(26)です。よろしく。

発行日　昭和60年3月25日
編集人　日本大学桜薬会事業委員会
発行人　日本大学桜薬会会長　高仲　正
印刷所　白洋印刷KK　電話東京352-5631・9665
発行所　〒101　東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部薬学科内
電話　東京293-3201　振替　東京2-50025
写　植　株式会社電算プロセス